

2022 年度
社会福祉法人 空心福祉会
事業報告書

2023.5.1 発行

<法人理念>

「かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心」

<福祉サービス方針>

社会福祉法人 空心福祉会は「かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心」を法人理念とし、地域社会に対し安心・安全と満足感のある福祉サービス提供を行う。

<基本方針>

超高齢社会の到来に対し、我が法人においては、既存事業の機能強化と特質化を図り、ニーズの多様化に対応するサービスを包括的に展開する。また、地域への働きかけを重視し、各サービス拠点が地域福祉の中心的役割を果たす。

- ・「未来 Vision」の実現に向け、更に利用者ニーズと地域ニーズを敏感に反映した多様なサービス展開が必要であり、それぞれが地域福祉の拠点として個々の特性を活かし、その役割を果たしていけるよう取り組む。

<評価>

8月に晴風 50 床稼働まで再開できたものの、地域的に不便なこともあり全床稼働まではまだ目途が立っていない。地道に進める努力が必要である。また、にれの木園通所介護事業を休止し、よりニーズの高い通所介護事業を目指すとともに、法人全床稼働を目標に対策に取り掛かり、地域福祉の拠点として求められる役割を果たしていけるよう取り組んでいかなければならない。

- ・法人本部の財務管理、労務管理等の役割を適正化し、組織体制をより盤石たるものとする為に、各事業所の円滑な事業展開のバックアップ体制を整える。また、更なる業務効率化を推進し、ワーク・ライフバランスに配慮した具体的な労働環境改善を行い、福利厚生の実施による魅力ある職場環境作りを展開していく。

<評価>

会計ソフトを確実に活用し適正な財務管理を行えた。しかし、人材不足により入居者の受け入れができず、借入をしなければならないこととなった。

福利厚生充実の一環として、実施しているリフレッシュ休暇の取得率は、2020 年度 83.7%、2021 年度は 97.7%、今年度は 86.5%となり減少した。要因としてはスタッフへの促し不足と、人員不足による調整の困難さが目立った。次年度は人材不足の厳しさはあるが、100%を目指して調整を工夫する必要がある。

労働環境の改善として、2023 年 4 月より 1 か月の変形労働制に変更を行うことで、休日が 4 日間増えるように就業規則の改定を行った。

- ・円滑な運営を支える人材確保のため、幅広い求人活動、ホームページ・SNS 等様々な手法を活用した PR 活動を展開し、人材確保を推進する。特に人材不足による経営への影響が増大する中、法人構成員による英知と努力による人材確保を戦略的にすすめ、経営の安定化を図る。

<評価>

ホームページ、SNS、FM、福知山駅コンコース内掲示等を引き続き活用し、情報公開委員会、PR 部会の活動から SNS についても、Instagram の更なる活用として、「認知症の方への対応例」

の動画を作成した。各施設の日々の様子についても、写真使用の幅を広げ、PR強化を進めている。人材確保が困難な状況は継続しているが、前年度と引き続き外国人介護人材の計画的な入職と、就職フェア等へのブースの出展も積極的に進め、法人全床稼働を目標に更なる人員確保に努める。

- ・法人オリジナル QMS を基礎に円滑な事業の経営継続に努め、感染症等に敏感に対処することにより、安心・安全と共に信頼ある質の高いサービスを提供する。

<評価>

法人オリジナル QMS の活用のため、年度末から整理を実施した。全スタッフが理解した上での運用が急がれる。感染症や災害発生が見られる中、業務継続計画（BCP）に着手したが、完成には至っていない。来年度には完成させる必要がある。

- ・新しい人事考課システムにより、職務の遂行度や業績、能力などを一定の基準で査定し、それを見える化することで人材育成に繋げる。今年度も引き続き権利擁護に力点を置きながら、職種、階層ごとに高い理想とプロ意識を持ったスタッフの育成を行う。外国人の受け入れを安定的なものとし、互いに協力しながら質の高いサービス提供ができるよう研鑽する。

<評価>

新しい人事考課システムをスタートさせることができた。しかし、感染症の影響と初めての試みであり、計画より大幅に遅れることとなった。改善点を抽出し、次の人事考課に活用する必要がある。

人材育成委員会を中心に権利擁護に係る研修を実施した。また外国人介護人材に対し、ケアの質と日本語能力の向上を目標に「外国人介護職員講習」と「日本語勉強会」を開催した。引き続きスタッフの育成と定着が今後の課題となる。

- ・社会福祉法人として地域貢献を果たすべく、幅広い福祉相談、社会資源の活用、地域や各関係機関と連携したソーシャルワークを、地域連携支援部を中核に積極的に展開する。また、保有する設備・機能の地域開放による貢献活動を行う。

<評価>

新型コロナウイルスの影響により、施設の設備機能の地域開放は中止せざるを得なかった。しかし、認知症カフェについては感染状況を考慮しながら開催することができた。広報を積極的に行わなかったことで、来店者はにれの木園からの訪問が多く占めた。今後も影響は継続するものの、そのことを踏まえた地域貢献活動の検討が必要である。

空心福祉会
法人本部
事業報告

総務部／事務 事業報告

<年度福祉サービス目標>

1. オリジナルテーマを含む部所別研修や、その他の研修への参加などスキルアップに努める。

(評価)

部所別研修は総務部事務会内で実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、7, 9, 12, 1月の総務部事務会は中止とした。予定を変更しつつ計画通りの部所別研修を実施することができた。その他の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で参加が難しく、参加できなかった。

- 1-①部所別研修を総務部事務会で計画的に行う。

(評価)

以下の通り会議内で実施した。

- 22. 5.11 “事務に求められるスキル”
- 22. 6.10 “身体拘束廃止”
- 22. 8. 8 “事故／苦情防止”, “高齢者虐待”
- 22.10.11 “感染症対策”, “褥瘡予防”
- 22.11. 9 “感染症対策”
- 23. 2. 9 “身体拘束廃止”

- 1-②自己研鑽の研修、講習にできる限り参加する。(SDS研修)

(評価)

参加できなかった。来期は感染状況を見て、積極的な参加を目指す。

(財務課)

2. 正しく透明性のある会計処理及び正確な介護保険請求を行う。

(評価)

会計については大きな問題も無く、正確に処理、報告ができた。介護保険請求に関しては、利用者の基本情報（性別・介護度・被保険者番号等）に不備があり返戻になる事があった。今後は、正確な請求ができるよう気を付ける。

- 2-①毎月20日までに、伝票、元帳、試算表を作成し、末日までに理事長へ会計状況を報告する。

(評価)

毎月遅滞なく報告できた。

- 2-②請求過誤による返戻0件を目指す。(施設事務は国保処理を毎月5日までにを行う) ※CM過誤の返戻を除く

(評価)

返戻3件。しかし、2件はこちらに間違いはなく、市役所の処理が間に合わなかったものである。国保処理は、毎月5日までに行えた。

[過誤1件]

えるむ…新規入居者情報の性別間違い。3月審査で返戻となり、4月再請求処理をした。

[事故2件]

これの木園…6月分請求1件(福知山市)。区分変更による市の認定変更が未決定で、正しく

請求したが返戻となった。8月再請求処理をした。

晴風…3月分請求1件（丹波市）。区分変更による市の認定変更が未決定で、正しく請求したが返戻となった。5月再請求処理をした。

（人事課）

3. 多角的に求人活動を行い、人材確保に繋げる。

（評価）

昨年度に引き続き、コロナウイルスの影響で採用活動が制限された。人材確保についても厳しい状況が続いている。

3-①養成校、近隣の高等学校等への求人を行う。全国の養成校等に郵送にて求人情報を提供する。また、学校独自の求人サイトへ積極的に登録する。

（評価）

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、大学等の訪問は中止し、郵送で情報を送付した。高校に関しては事前確認の上、訪問した。

※郵送；大学・短大・専門高：156校 高校：17校

※訪問；高校：15校

3-②就職フェアに積極的に参加し採用に繋げる。

（評価）

年11件の就職フェア（Web含）に参加し、3名を採用した。

今年度から高校生JOB-EXPOと地元企業と高校教諭の就職懇談会に参加した。来訪者はあったが、採用にはつながらなかった。

・ホームページ、SNS、求人広告、求人サイト等様々なPR活動を行う。

（評価）

ホームページの更新、新聞等への広告掲載、SNSで就職フェア等への案内を行った。

（施設事務）

4. 適切な情報を共有し、業務を円滑に進める。

（評価）

共有事項(事故・苦情報告)、業務中の気付きや疑問点を総務部事務会内で検討した。些細なこと、不明なことなどを解決できるようにと実施した。毎月、意見が出るわけではなかったが、その都度検討することができた。来期も継続していく予定ではあるが、意見を発信しやすい環境作りと工夫も必要である。介護保険勉強会も実施した。

4-①介護保険情報を迅速に入手し、正しく理解し、正確な請求をする。

（評価）

介護保険情報をより正確に理解するよう、勉強会を下記のとおり実施した。（資料配布）

22. 4.13 “人員基準(特養)”

22. 5.11 “人員基準(グループホーム)”

22. 6.10 “日常生活継続支援加算，サービス提供体制強化加算”

22. 8. 8 “初期加算，外泊時加算”

22.10.11 “介護職員等ベースアップ等支援加算”

22.11. 9 “常勤換算”

22. 2. 9 “夜勤職員配置加算”

22. 3.10 “看護体制加算”

資料での再確認ができ、ある程度の効果があったと思われるが、断片的な基礎程度であり個々の更なる学びが大切である。

4-②消耗品等使用量を管理し、適正利用に努める。

(評価)

毎月、月末に棚卸しをして使用状況を確認し、不明、気になる点があれば代表会で話し合い適正利用かどうか確認している。数点の物品が値上がりにより、価格変動があり一層の管理が必要である。

4-③ご意見箱を管理し、総務部事務会で確認後、必要に応じて法人全体へ水平展開を行い情報共有する。

(評価)

以下 8 枚のご意見があった。

晴 風：5 枚

- ・施設の様子を知らせて頂けるのは(“そら”と“かぜ”便り)、誠にありがたい。
- ・目薬の点眼はしてもらっているかの確認の内容。⇒特養にまわし確認済
- ・施設の様子を知らせて頂きありがたい。これからも請求書と一緒に毎月、この用紙は送ってほしい。
- ・晴風に入居し、母の表情が明るくなり、食事も食べられるようになってうれしく思う。家族はそれが一番心配であり、感謝している。連絡もこまめに頂き様子が良くわかる。
- ・晴風に入居し、慣れてきた様子でうれしく思う。

えるむ：3 枚

- ・1年間の行事予定を色々考えてもらいうれしく思う。
- ・言語での意思表示が困難な為、何かと不便を掛けている事と思う。身近で接している方が家族同様になると思うし、何かと配慮頂き感謝している。
- ・ケアラボで写真を見ることができ、施設での様子がわかり嬉しい。

にれの木園は、ご意見がなかった。

施設内ではどのような内容でも報告し、内容に応じ必要であれば各施設へ展開する。今年度水平展開する事案はなかった。

<来年度への課題>

- ・業務の内容、要する時間等を確認し全体像を把握できるようにする必要がある。
- ・各自が更に介護保険に関する内容を学んでいけるように、福知山市が発行している冊子「介護保険のしくみ」を抜粋して確認していきたい。
- ・引き続き、各施設間で連携して業務を行っていくようにする。
- ・人材確保について新卒・中途共に応募が少なく、予定していた採用数に到達できなかった。今までよりも更に採用に力を入れていく必要がある。

地域連携支援部 事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1. 「断らない姿勢」を念頭に、総合相談窓口として地域の多種多様な相談に対応し社会資源へつなぐ。

（評価）

コロナ禍の影響がまだ残る1年であり、今年度も積極的な活動はなかなか難しかった。

しかしながら、最低限必要な取り組みは行えたと考える。「断らない姿勢」については、支援部スタッフ全員の意識にほぼ定着し、対応が難しい場合には状況等の説明と他関係機関、専門機関へ繋ぐ対応ができており、今後も同様の姿勢での対応を継続したい。

1-①〔EC ベース〕総合相談窓口や認知症カフェ、施設の設備貸し出し等を行っていることの周知・啓発を行う。市役所パンフレット等設置コーナーへの設置、近隣自治会への回覧等で対応する。

（評価）

- ・入居申込書類を挟んだパンフレットを市役所の所定場所に設置し、4月、5月、8月、11月に各5セット、2月4セットを補充した。必要に応じて活用して頂いている。
- ・近隣自治会への回覧はできていない。来年度は近隣自治会以前に、まずは関係機関等から広報していくことをステップとして考える。

1-②〔EC ベース〕入居申込時に提出して頂く書類様式を見直しすることにより入居希望者のアセスメントを容易に行えるようにし、より適切かつ迅速に新規入居者の確保が行えるように調整を図る。

（評価）

- ・年度初めに入居申込書類の様式変更を行ったことにより、申込時点で入居希望者の状態像や入居希望のタイミングが容易に把握でき、事前調査を進めやすくなった。
- ・一方で「入居申込者状況調査票」の添付がない場合に情報不足により把握しづらい状況もあった。様式内容の微修正が必要な箇所も発見した為、来年度は微修正を図りつつ、来る介護保険改正時に申込要件等の変更があれば随時対応できるように準備していく。
- ・新規入居者確保としては、申込者数の微減と他施設入居者が多く、特に特養晴風において8月から10床稼働した空床に対し3月末時点で空床2床と候補者確保に苦戦した。支援部で対応できる範囲においては、申込後タイミングを見て事前調査を進め、入居者確保に向けて施設に情報共有する努力は行った。

1-③〔日新包括〕過去1年間に受け付けた新規のケースに対し、その後の経過確認の為に年1回訪問、もしくは電話での聞き取り調査を実施し状況把握に努める。

（評価）

- ・過去1年間（22.1.1-22.12.31）に受け付けたケースの総数（228件）から、現在担当ケース、及び終結になったケース（逝去・居宅介護支援事業所へ引き継いだ等）を除くと27件あり、各スタッフで分担し聞き取り調査を実施した。連絡がとれないケースが7件あったが、その他は経過が確認できた。経過を追うことにより、利用者の状況変化が早期発見でき、必要に応じてサービスや専門職へ繋ぐ等の対応が行える為、来年度も継続して取り組みたい。

1-④〔日新包括〕各所サロン等での日新包括におけるPR、民生児童委員を通じてのアウトリーチ等を活用し、ただ待っだけの相談にならないように活動する。

（評価）

- ・上半期、下半期にサロンへの出務依頼がそれぞれ1件あり、対応した。民生児童委員らの

相談や対応依頼に対して随時の対応、対応後の経過報告は行えた。サロン等の出務は来年度も依頼があれば積極的に請け負うこととし、民生児童委員との顔の見える関係性を心掛け迅速な相談対応に努めたい。

2. 関係機関・団体等とのネットワークを形成し、地域課題の解決や改善、個々の生活課題、ニーズに対する利用者支援、有用な事業運営を行う。

(評価)

各担当者が関係機関、団体等とのネットワークを活かして、個々の生活課題やニーズに対する利用者支援が行え、地域課題の把握や解決に向けた地域ケア会議の開催準備等も進めることができた。医療機関や地域の関係者等、他職種連携・協働を意識した取り組みが一歩進んだ一方で、認知症カフェの運営に課題が残る。有用な事業運営を行う為に来年度は認知症カフェも他機関との連携を活かした運営を意識していく。

2-①〔EC ベース〕認知症カフェは、地域ニーズに対応できるよう関係機関や近隣地域包括、市内居宅介護支援事業所等との連携を図り開催する。また、運営協力ボランティア希望者があれば受入れる。

(評価)

- ・施設のコロナ感染状況を考慮しながら開催し、来店者は下記の通りであった。上半期は関係機関からの来店が多く、下半期は広報を控えたこともあり特養にれの木園からの来店者が多くを占めた。来店者にはカフェの雰囲気を楽しみ喜んで頂けたが、これまで利用された地域住民は介護保険の認定を受けられ、居宅の担当利用者になられたこともあり、来年度はより広く利用してもらえるように取り組み方を工夫していく必要がある。
- ・12月には市認知症カフェ情報交換会に参加して情報収集を行い、京都認知症カフェ連絡会主催の運営管理者・スタッフ研修では全国の先駆的な認知症カフェの取組みを聴講し、カフェ運営の様々な工夫を知ることができた。来年度以降は福知山市の認知症関連の取組みと認知症カフェとのコラボレーション等を提案しながら、認知症カフェの運営方法を模索したい。
- ・運営協力ボランティアは、昨年度に引き続き1名(元法人スタッフ)に協力して頂いている。

(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来店者数	3	2	4	中止	中止	中止	8	4	中止	中止	5	5

2-②〔EC ベース〕惇明地区福祉推進協議会生活支援サービスに対して運営協力を行う。

(評価)

- ・惇明地区福祉推進協議会生活支援サービスについては、福推協会長や行政との運営方法の協議を重ねた結果、惇明地区でまちづくり協議会を立ち上げられ、事業を進められる運びとなった。法人からの協力は一旦終了した。

2-③〔居宅〕月初に毎月の目標稼働を掲げ、稼働状況に応じて医療機関、地域包括支援センター等の関連機関と連絡、連携を図り、新規利用者を獲得する。

(評価)

- ・医療機関、包括と稼働状況に応じて連絡、連携は図れ、また、家族等から直接の申込に対しても受諾し新規確保に繋げることができた。月初に新規確保人数を掲げることにより、

新規受諾への意識も向上した。現時点で調整中の方や保留者へも随時状態確認等も行って
いる。関連機関との連絡、連携を図りながら新規利用者確保に努めたい。

各月受諾件数（サービス開始月）

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療機関	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
包括	3	2	3	1	4	1	2	1	1	2	3	1
家族・本人, 他	0	1	0	2	1	0	0	1	0	1	1	0
終結	31	1	1	1	3	1	2	0	2	2	1	4

2-④〔居宅〕ターミナルケアや医療系ニーズの高い利用者の対応の充実を図る。

(評価)

- ・在宅で看取りとして6件、在宅での看取りが困難であり病院で逝去の利用者は8名あった。コロナ禍ではあったが、訪問診療、訪問看護、介護サービス事業所等、また、入退院の際の連携、調整は図れた。医療系ニーズは高まっており、累計にて、訪問入浴4名、訪問看護14名（医療2名含む）、訪問リハビリ6名、通所リハビリ9名の利用、特に訪問看護や訪問リハビリが増加傾向であった。また、医療での認知症デイケア利用者2名の支援も行っている。

2-⑤〔居宅〕困難事例等に関して、地域包括支援センターや関連機関との連携を強化し支援する。

(評価)

- ・包括や社会福祉課へ相談し権利擁護事業や成年後見制度の活用支援に繋げることができ、状況、状態に応じて継続的に支援している。ゴミ屋敷問題やペット（猫）の多頭飼いの利用者は、包括や病院等と連携、調整により現在入院中である。虐待事例に関してもその都度、相談しながら支援を行っている。身寄りのない生活保護受給利用者で現在入院中であるが、在宅も困難な状況であり、関係機関等と成年後見の手続きや施設等調整中である。

2-⑥〔居宅〕災害時における避難行動要支援者の避難行動を把握し、相談しながら居宅サービス計画書に組み入れる。

(評価)

- ・新規や変更、更新の際、本人や家族に確認しながら居宅サービス計画に組み入れ、防災意識は共に向上している。まだ直接的に地域（自治会）との接点はないが、地域関係者から家族へどこの居宅か等の確認をされている地区もある。

※その他

- ・ケアプランセンターだよりは、計画通り発行/配布できた。豆知識として、健康づくりや感染症予防等の内容を記載することでコミュニケーションを深めることができた。
- ・認定調査は52件、52件中11件は区分変更申請を行った。

各月認定調査件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
認定調査	5	3	5	8	1	4	3	6	5	3	6	3

2-⑦〔日新包括〕関係機関等との連携強化や関係性構築及び、介護予防支援、介護予防ケアマネジメントの質を向上する為、年1回以上（圏域事業所・委託事業所を含む）主催勉強会を開

催する。

(評価)

- ・計画通り、1回の勉強会を実施できた。昨年度に引き続きコロナ禍での実施であり、Webで対応した。勉強会後のアンケートからは、Web参加を求める意見が多い傾向にあるが、集合での勉強会を希望する回答も得られた為、来年度は環境等の状況を判断しながら、集合での勉強会を開催したい。

22.11.18 “模擬地域ケア会議”

- 2-⑧〔日新包括〕関係機関等との連携強化や関係性構築、及び地域課題解決の為、事例検討会を年3回以上（圏域事業所・委託事業所を含む）開催する。

(評価)

- ・計画通り、3回的事例検討会を実施できた。上記の勉強会と同様にWeb開催が中心となったが、コロナ感染が落ち着いた状況を見計らい、3回実施の内の1回は集合開催とした。包括が介入する困難ケースは重層的課題を抱えていることが多く、事例検討を行う上では参加者にとっても有用になると思われる内容であり、今後も継続的に開催したい。

22. 5.24 “拒否感が強く、制度に繋がらない独居男性の支援”

22.10.20 “全盲の息子と折り合いが悪い、精神疾患を持つ独居女性の支援”

23. 2.17 “親族の協力が得にくい独居男性の死後の対応”

- 2-⑨〔日新包括〕日新圏域の福祉推進協議会と連携や情報収集を行い、地域の活動に参画・協働する。

(評価)

- ・昨年度から市役所の第1層のコーディネーターが代行となり、地域支援コーディネーター連絡会の議事録等にて情報は収集していたが、地域の活動に参画・協働できていない。
- ・来年度、地域公民館の住民センター化に伴い、地域公民館機能充実目的で日新包括も移転となる。その為の、地域公民館との意見交換会には参加し、地域公民館利用について地域が抱える課題の把握や、住民自治の活性化をどのように促進するのか等を検討した。

22. 7. 7 住民センター設置に係る意見交換会（市民交流プラザ）

22. 8.29 住民センター設置に係る意見交換会（日新地域公民館）

- 2-⑩〔共通〕所定の月を除き、地域連携支援部会議に併せて地域清掃を行う。（荒天時は事業所内清掃，社会資源調査を行う）

(評価)

- ・1月のみ雨天中止としたが、その他は計画通り実施できた。今年度は新たに施設の環境整備に取り組み、施設へも貢献できたと考える。地域連携支援部としての役割を果たす為にも、地域清掃は今後も継続して取り組みたい。

開催日	清掃箇所	開催日	清掃箇所
4月	前田地区	10月	晴風
5月	小谷ヶ丘地区	11月	えるむ
6月	西佳屋野地区	12月	篠尾地区
7月	駅北地区	1月	石原地区（中止）
8月	—	2月	—
9月	戸田地区	3月	—

3.ソーシャルワークスキルを向上させ、地域貢献に繋ぐ。

(評価)

- ・計画的に部所別研修や事例検討会、勉強会を実施し知識とスキル向上に努めた。今年度も引き続きコロナ禍の影響は大きく、法人外 SDS 研修は Web にて参加した。またボランティア活動を通して地域貢献活動を行った。

3-①〔共通〕部所別研修を計画的に開催し、基礎知識の向上を図る。

(評価)

- ・計画的に実施し、基礎知識の向上を図った。

- 22. 4. 9 “事故／苦情防止”
- 22. 6.11 “感染症対策”
- 22. 7. 9 “身体拘束廃止”
- 22. 8. 6 オリジナルテーマ “ハラスメント”
- 22.11.12 “高齢者虐待”
- 22.12.10 “感染症対策”
- 23. 1.14 “褥瘡予防”

3-②〔共通〕業務に役立つ情報収集や学びの場として、部所の会議内で6回／年、勉強会を実施する。

(評価)

- ・計画的に実施し、情報収集や学びの場として業務に役立てることができた。

- 22. 5. 7 “家族支援のポイント”
- 22. 8. 6 “熱中症”
- 22. 9.10 “利用者や家族との対話で活かす技術”
- 22.10. 8 “リバースモーゲージ”
- 22.12.10 “ケアプランデータ連携システム”
- 23. 2.11 “認知症患者の食事支援” 「ユマニチュード」資料のみ

3-③〔共通〕法人外の SDS 研修に積極的に参加し、実績を管理する。また、研修のフィードバック機会確保の為、部所の会議内で伝達共有研修を実施する。

(評価)

- ・コロナ禍ではあったが、法人外の SDS 研修に Web で参加できた。研修のフィードバックについて、日々の業務に関連する研修へ参加していた為、業務に活かすことができた。

- 22. 8.29 “認知症ケアチームの研修会”
- 22. 9.24 “福祉と防災の最前線 DWAT の取り組み”
- 23. 2. 4 “認知症患者意思決定支援”

3-④〔共通〕事例検討会を年6回（包括4件・居宅2件）実施する。検討希望ケースは適宜開催する。

(評価)

- ・計画通り事例検討会を実施した。日頃対応に苦慮する事例を共有でき、各々の業務に活かすことができた。日常的に困難なケースは部所内で相談、検討する機会が多い為か、臨時の事例検討会は開催していない。

- 22. 5.17 “認知症の夫を在宅介護の末施設入居させた妻の支援”

- 22. 6.17 “インスリン管理が必要な独居の方への支援”
- 22. 7.21 “認知症初期の利用者との関り”
- 22.10.25 “親の介護、家族間の介護トラブルを回避するには”
- 22.12.21 “妻の思いが影響しがちな利用者とその家族の支援”
- 23. 1.24 “認知力低下し後見の必要な高齢者の支援”

3-⑤〔共通〕全スタッフが法人内外のボランティア活動の情報提供を会議等の場にて行い、積極的に参加する。

(評価)

- ・コロナ禍の影響はあったが、西佳屋野地区清掃など延べ13人のスタッフが延べ5回の法人内外のボランティア活動に参加できた。

＜来年度への課題＞

- ・福知山市の人口の推移及び高齢者の人口推移やそれに伴う介護保険申請者の数等の統計データを適切に分析し、福祉サービスの必要分野の見極め等、これからの福祉業界の動向を探り適切なサービスを継続及び開発していく先導者としての部所を構築したい。
- ・入居申込者の受理件数（3特養1GH）は、2019年度142件をピークに、2020年度124件、2021年度93件、2022年度86件と減少にあり、福知山市内の特養待機者数も2021年度350名、2022年度171件と激減している情報がある。全国的に地方で同様の事象が発生しており、2024年度介護保険制度改正において特養の入所要件緩和策が検討されている為、介護保険の動向把握や対応策等を検討する必要がある。
- ・入居申込者数の管理について、現入居者の併願の取り扱いに課題があり、確認・検討する。
- ・認知症カフェについて、来年度も感染状況を把握しつつ開催を検討し、他機関との連携を図りながら一人でも多く利用して頂けるように運営を行っていく。
- ・ネットワーク構築、地域資源開発、地域課題発見を目的とした地域ケア会議を開催したい。また、サービス事業者に限らず、地域住民や警察、民間事業者、市町村等も巻き込んだ地域ケア会議の開催を実現させたい。
- ・関係機関との連絡、連携を図りながら新規利用者確保に努め、また、在宅生活の維持、継続ができるようサービス事業所や包括、医療との連携強化を目指していきたい。
- ・日新包括は、8月に移転（日新公民館内へ）を控えており、業務への支障が最小限になるように準備を進める。

高齢者複合福祉施設
にれの木園
事業報告

<施設理念>

おかげ様と互いに“心”が伝わる暮らし

特別養護老人ホーム にれの木園
(にれの木園 ショートステイ)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.利用者個々が安心して生活し、スタッフ個々が成長しながら、サービスの質の向上を目指す。

(評価)

スタッフの個々の成長に関しては、基本的な指導を含め、ケアチェックが活かされていなかった。サービスの質の向上は、当日リーダーが中心となって、レクリエーションや余暇活動を考え、輪投げや風船バレー等、一緒に楽しんでもらえるレクリエーションを実施する事ができた。

1-①各スタッフの基本的なケアを見つめ直すと共に、支援方法を確認し、実施する。

(評価)

ケアチェックはリーダーを中心に実施を行い、その場での支援方法は確認できたが、具体的なアドバイスやその後の検証など見つめ直す事はできなかった。

- ・部長、リーダー級で年2回以上（上半期・下半期に分け）“にれの木園ケアチェックシート”に基づいて、スタッフの支援方法の確認（排泄介助・食事介助・入浴介助・移乗介助等）を行い、その場で協議しアドバイスをを行うようにする。結果は代表者会議内で共有する。

(評価)

ケアチェックは、ケアワーカーリーダーを中心に、上半期はケアワーカー21名中17名にケアチェックを実施できた。下半期はケアワーカー21名中7名にケアチェックを実施。ケアチェック時に気付いた事はアドバイスをその場で行ったが、その後、ケアに活かしているかの検証はできなかった。下半期は代表者会議でも報告を行ったが、内容が薄い事もあり、的確な話し合いはできなかった。

1-②ケアコラボを活用しつつ、写真や動画等での記録を行う事で情報を共有する。

(評価)

申し送り事項に、文章では分かり難いような事は、写真を用いてレクリエーションや行事の様子なども写真で記録する事ができた。また撮影した写真を、にれ通信など家族にも送る事ができた。

- ・各スタッフ出勤時、担当入居者の写真、動画を撮り、日常生活の様子をケース記録として残す。

(評価)

日常生活の様子は、上半期はあまり残す事ができなかったが、下半期は当日リーダーを中心に、記録として残せた。それでも、一部のスタッフに偏りが見られ、担当としての記録は実施できなかった。

- ・ケアのコツ（ポジショニング等）を引き継ぎ事項に記載し、共有する。

(評価)

ケアのコツは、ケアワーカー、ナースを含めて、ポジショニング等をケアコラボにて写真を使用しつつ、情報共有ができた。特養ミーティング時にも、ポジショニング等の確認を実施した。

(ケアワーカー)

2.スタッフ全体で、入居者のケアや関わり方、基礎の介護技術、知識の向上を目指す。

(評価)

入居者のケアや関わり方は、ケアワーカー会議を中心に意見を出し合い取り組めた。基礎の介護技術、知識の向上は部所別研修にて、5月“目指せオムツフitter”1月感染症対応“嘔吐、下痢”(実技)2月“ケアの基礎知識”(食事介助の実技)3月“NLケア”(実技)を実施し、ケアの質向上に努めた。基礎の知識の理解を深めてもらえたが、効果が期待できるまでは、繰り返し実施する必要がある。

2-①気づきを増やして、日々のケアを常に見つめ直す。

(評価)

ケアワーカールームに設置した紙に付箋で、気づきコメントとして、各ケアワーカーが貼り出す取り組みを実施した。

日々のケアを常に見つめ直すという点では、特養朝ミーティング時に、入居者のケアについて話し合いを行い共有した。ナースやソーシャルワーカーからの気づきへの意見はみられたが、全体的にケアワーカーからの意見は少なかった。

・「ヒヤリ・ハット Mail」を1ヶ月1回以上全ケアワーカーに出してもらおう。

(評価)

全ケアワーカー提出はできなかった。4月、5月のケアワーカー会議にて申し送ったが、スタッフ個々への説明や書き方のレクチャーが、特に外国人スタッフにできなかった。危機管理委員会でも確認は行ったが、具体的な事や改善ができなかった。

・CWRに紙(A3×2枚)を貼り出し、日々の気付いた事を、良い事でも、注意する事でもよいので、1日1枚以上、付箋を紙に貼るようにする。当日リーダーが指名した当日出勤者で記載する。(月ごとで張り替える。)また、毎月のケアワーカー会議で、振り返りを必ず行う。

(評価)

4/5CWRに、模造紙の紙を貼り出し、各スタッフに説明を行いつつ実施した。4月から3月までの間で、211枚の提出があった。「～ありがとう。」という相手を褒める内容が多くなってしまい、気づきではないのではという意見もあり、8月のケアワーカー会議内で、内容を振り返り、その後は、入居者に対する内容も増やす事ができた。当日リーダーが指名し、内容がずれているものもあったが、気付いた事を貼り出せた。コロナ感染対応中の12月以降は、コメント数が減少してしまった。

(ナース)

3.専門職の知識、技術を生かして、利用者が安心して暮らせる環境を作る。

(評価)

ケアラボや朝ミーティングにて、ベッド上でのポジショニングや除圧、着床のタイミングなどの助言を行えた。また、オムツ交換時に陰部の洗浄方法のレクチャーも行った。レクチャーを行った結果、一部のケアワーカーに浸透し、実施する事ができた。

3-①レクリエーションとして、体操(口腔体操)や工作等の提案を、会議内で2ヶ月に1回話し合いを行う。ケアワーカーと共に実施をしていき、進捗状況も確認を行う。

(評価)

4月に口腔体操の提案を行い、5月から口腔体操“パタカラ体操”をケアワーカーの朝礼時に実施してもらったが、その後、パタカラ体操は毎日ではなかったが、継続して実施できた。その後の提案や進捗状況の確認はできなかった。

3-②ベッド上でのポジショニングを確認し、姿勢保持や褥瘡予防に努める。随時ケアワーカーへ指導とアドバイスを行い、ナース会議で振り返る。

(評価)

ベッド上でのポジショニングは、排泄交換時に、ケアワーカーと一緒に確認を行いながら、実施ができた。褥瘡予防は、ポジショニング方法をケアコラボにて申し送りつつ、排泄交換時に実際に確認を行いながら、予防に努める事ができた。6月、11月のナース会議にて、振り返りを行った。

(ソーシャルワーカー)

4.施設内で充実した生活を送って頂く為、多職種と連携しつつ、取り組みを増やししながら、利用者、家族とのつながりを意識したサービス提供で成果を得る。

(評価)

“書のある暮らし”を6月、7月、1月に実施した。喫茶にれを5月、7月、9月、1月、3月に開催し、楽しんでもらう事ができた。にれの木菜園の種や肥料を購入し、野菜の成長を見て頂く事ができた。収穫時の様子を、にれの木園通信を通して、家族にも伝える事ができた。

4-①入居者の施設での生活の充実を図る。

(評価)

毎月の特養広場にて、入居者の意見を聞きつつ、外出(外気浴)の機会や貼り絵、塗り絵、間違い探しなどの希望がある事をケアワーカーと共有し、実施する機会を増やすなど、充実した生活を送って頂けるよう努めた。

- ・ソーシャルワーカー主体で誕生日会を月1回実施する。誕生日の昼食時に、当月誕生日者の紹介をさせて頂く。色紙はケアワーカーに作成をしてもらうよう依頼する。

(評価)

誕生日会を月1回実施できた。昼食前に誕生日者の紹介と、担当ケアワーカーが作成した色紙を誕生日者にプレゼントした。9月、12月、1月は新型コロナウイルスの関係で実施ができなかった。皆さん色紙のコメントなどを見て喜ばれていた。誕生日の様子を、にれの木園通信でも家族に伝える事ができた。

- ・にれの木園通信(原本)の掲示、にれの木園掲示板の写真とレイアウトを3ヵ月に1回更新する。

(評価)

にれの木園通信(原本)の掲示は、1月-3月は、A3のサイズで、ホールと食堂に、それぞれ1枚ずつ掲示した。4月-12月は実施ができなかった。にれの木園掲示板の写真は、5月花見、7月にれ祭り、11月にれの木園フォトコンテスト、1月新年会の様子の写真を更新した。にれの木園通信、掲示板共に、入居者にも見てもらう事ができた。掲示を見ながら入居者と思い出話ができる。

4-②ケアコラボのケア記録(生活状況)とモニタリングのすみ分けができるように、多職種連携していく。

(評価)

ケア記録とモニタリングのすみ分けができるよう、6月のケアワーカー会議において、部長より説明を行い意識して記録してもらえた。モニタリングも内容は薄い場合もあるが、外国人スタッフも10日に1回以上を意識して記録してもらえた。

[にれの木園ショートステイ]

5.サービス提供において、利用者、家族との連携を意識したサービス提供に努める。

(評価)

事前連絡において、利用者の状態確認や家族の希望を確認し、翌日の朝ミーティングやケアコラボにて申し送った。また送迎時間は、家族の希望された時間に合わせられるよう、送迎時間の調整を行う等、家族の意向に添うよう対応できた。また、「ショートステイ受け入れ確認表」の家族からの要望も、ケアコラボを通して共有し、「ショートステイ連絡帳」にて返答事項を記載できた。

5-①入所時の家族からの伝達事項、ケアプランの実施状況を「ショートステイ連絡帳」に記載する。

(評価)

家族からの伝達事項は、入所時にケアコラボに記載を行い共有できた。伝達事項に対する結果や対応方法の返答は、「ショートステイ連絡帳」に記載できた。ケアプランの実施状況は、記載する事ができなかった。

- ・ソーシャルワーカーで連絡帳レビュー時に記載されているかどうか確認する。

(評価)

連絡帳レビュー時に、意識できておらずケアプランの実施状況を確認する事はできなかった。

- ・入所時の伝達事項については、ケアコラボにて記載を残す。

※判別しづらい衣類は、必ずケアコラボに記録する。

(評価)

伝達事項はケアコラボに記載を残す事ができた。判別しづらい衣類の他、持参されたものは、上着、ズボン、下着等に分けて全て写真に撮り、ケアコラボに記録できた。

6.返却忘れの件数を前年度 25%減とする。(※前年度 26 件) とする。

(評価)

返却忘れは、22 件で 16%減であった。返却忘れした物品は、全て家族へ連絡し返却を行った。

6-①返却忘れが発生した場合、記録に残し、発生した次の日の朝ミーティングにて是正処置を検討し、スタッフ間で共有し対応を行う。

(評価)

返却忘れの記載はケアコラボに残して共有をおこなった。発生した次の日の朝ミーティングでの是正処置は、できていない事の方が多かった。

- ・返却忘れの件数は、部長、リーダー級内で共有をしておく。代表者会、ケアワーカー会内にて、ケアワーカーリーダーより毎月報告する。

(評価)

返却忘れの件数は、特養にれフォルダ内の、「ショートステイ返却忘れチェック表」にて共有を行った。ケアワーカーリーダーより、代表者会議内で、上半期は報告ができなかったが、注意喚起しサーキュラーに入れるなどして、下半期は報告できた。またケアワーカー会議での報告はできていなかった。

<その他>

・実績：

<特養月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

率	95.4	97.0	95.4	96.3	96.1	98.2	98.7	95.7	90.6	84.9	87.4	90.7
---	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

年間稼働率は93.9%であった。基本50床ベースで受け入れを行った。年間入居者13名、退居者16名であった。空床期間、平均48日間であった。

<ショートステイ年間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
I	21.3	24.8	38.6	23.5	21.9	20.6	32.5	35.3	26.4	42.5	40.7	36.7

ショートステイ年間稼働率I 36.4%※除退所/含空床(22.4-23.3)年間通して5床から6床ベースへ稼働床数を増やしつつ、空床利用時の対応や、新規利用者の受け入れにて、稼働率増加の為、対応を行った。また、8月に緊急ショートステイの受け入れを1名行った。

・救急搬送：8件

：転倒での救急搬送が2件、急変での救急搬送が4件、新型コロナウイルスが関係しての症状悪化に伴う救急搬送が2件あった。

・行政報告(事故)：5件

：転倒による骨折5件であった。

居室内での転倒が4件、トイレ内での転倒が1件であった。いずれも自己転倒であり、ケアコールが鳴り訪室すると、すでに転倒されていたケースもあった。トイレ内での転倒は、夕食後であり、スタッフが気付いていれば防げたケースもあった。今後、トイレ内での見守りも含めて、利用者の安全確保について考えていく必要がある。

・にれの木園ショートステイの衣類の取り扱い

：カーディガンの色落ちした状態で干してあり、原因を探るもいつから色落ちしていたのか分からず、家族に報告を行い弁償する事となる。

：家族から「グレーのスウェットズボンがありますか。」と問い合わせがあり全居室内含め、何度も検索するも見つからず、また荷物チェック表には記載なく、本当に持参されたかどうか不明であった。家族からは、「大丈夫です。」との返答を頂いた。また、毛100パーセントのベストを普通に洗濯に回してしまい、縮ませてしまった。家族からは、「気にしないで下さい。」との事であった。信用に関わる事でもあり、衣類の扱いに注意していく必要がある。

・菜園計画

：きゅうり、トマト、スイカ、チューリップ、パンジー他

デイサービスの外側の菜園にて、今年度は、スタッフ2名が中心になって菜園を実施した。きゅうりやトマト収穫を入居者と一緒にする事ができた。中庭では、用務員、事務員がそれぞれ、チューリップとパンジーを植え、咲く頃には、入居者と一緒に見学ができた。

・歯科検診・指導事業：

：京都府歯科医師会の協力で、歯科検診を実施し、入居者の口腔内の状態確認、口腔ケアの実施方法の指導を受けた。その後、スタッフで口腔ケアの方法を話し合い、日々のケアの中に取り入れる事ができた。

・地域イベント参加

：11/11 介護の日イベントにて、みどり保育園へ訪問した。入居者2名参加しお菓子のプレゼントを行い、園児とも交流を持つ事ができた。また“空と心のcafé”にも、毎月参加することで、地域の方と交流する事ができた。

・作業レク実施

：季節の貼り絵など、季節に応じたものや“書のある暮らし”で書いた習字を掲示する事ができた。

また外国人スタッフも、方法を伝達する事で積極的に実施し、作業レクをしながらの、利用者とのコミュニケーションを図ることができた。

・新型コロナウイルス感染症：

：9/6に新型コロナウイルス感染症罹患者が入居者1名、スタッフ1名判明した。入居者は9/6-9/16まで個室にて隔離対応を実施した。スタッフは9/3-9/13まで自宅待機で対応を行い、それ以上の感染が広がる事はなかった。11/26にスタッフに新型コロナウイルス感染症罹患者が2名判明した。11/26-12/2まで療養期間に入る。12/5には入居者1名に感染が判明、12/8より全入居者居室対応、入浴の中止などの対応を行う。その後、徐々に感染拡大し1/3の終息に至るまで、入居者38名（ショートステイ2名）、スタッフ19名の新型コロナウイルス感染者が広がった。その中で、入居者1名が、新型コロナウイルス感染の関係で亡くなられた。1/13ショートステイ利用者1名に、新型コロナウイルス感染が判明する。すぐに感染隔離対応を行う。また、すぐに入浴の中止と、12/5-1/3の期間でコロナウイルスに感染された方は、ホールで過ごして頂き、それ以外の方は、居室対応を行った。2/6に終息したが、入居者7名（ショートステイ3名）、スタッフ2名にコロナ感染が広がった。重症化された方は特になかった。2月ケアワーカー会議、ナース会議、感染/褥瘡対策委員会にて振り返りと、今後の対応方法の検討を行った。

<来年度への課題>

- ・基本的なサービスの質の向上が必要である。日々のケアの見直し、リーダー級によるケアチェックを活用し、日々の中で指導をしていく必要がある。
- ・新型コロナウイルスが施設内で拡大してしまい、初動対応が遅くなってしまった事や感染症対応、物品の扱いなどがしっかりとできていないなど、実際に対応して気付かされる課題が多かった。振り返りを含めて、次に発生した場合や、まず持ち込ませない為には何が必要か、普段からスタンダード・プリコーションが意識できているか、定期的な勉強会や日々の気づきをお互いに指摘しながら常に確認をしていく必要がある。

(ケアワーカー)

- ・ケアワーカー間での意識や気づきの差がある。どこか他人任せになっていたり、緊張感がなかったり業務優先になってしまっている部分がある。自分が次に何をすべきか、常に考えながら動いていく必要があるが、指導する側にも何が大切な事なのかを伝えていく必要がある。

(ナース)

- ・多職種協働の為の情報発信と共に、ナースとしての専門性を生かし、利用者の状況把握、機能向上に努める

(ソーシャルワーカー)

- ・業務に目が向いてしまい、入居者1人1人とゆっくり会話する時間を取れていない事が多い。会話の中での情報収集を行う、相談を聞くなど、少しでもより良い生活をしてもらうヒントを得る必要がある。

[にれの木園ショートステイ]

- ・ショートステイ利用者の衣類の扱いが雑になっている。これまでできていた洗濯後の衣類の返却が他の入居者の衣装ケースに入れてしまっていたり、ウールの服を普通の洗濯方法で縮ましてしまったりといった事もあり、返却忘れ以外の事故も増えてしまっている。しっかりと確認ができていない事から、同じようなミスを繰り返してしまっている為、随時、ケアワーカー会等で確認をしていく必要がある。

これの木園デイサービスセンター 事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.利用者個々のニーズに沿ったケアを促進し、自立支援のケアの視点に立ち、利用者、家族の満足度の向上に繋がる安心・安全なサービスを提供する。

(評価)

サービス担当者会議、みんなの広場、日々のコミュニケーションを通して家族、利用者個々のニーズに沿ったケア、自立支援の視点に立ったケアを行い、満足度の向上につながるサービス提供を行った。

1-①「デイサービス計画書」の個別ケアに関する内容を焦点化し作成する。

(評価)

介護保険の更新やサービス変更のある利用者から随時変更し、「デイサービス計画書」内の個別機能訓練の項目に焦点化した内容を記載できた。

- ・本人、家族、担当ケアマネジャー等からデイサービス利用にあたっての希望、要望を確認し、「デイサービス計画書」の個別支援計画の項目に反映する。

(評価)

送り出し時の施錠等確認、デイサービスでの下肢筋力の強化等本人、家族、担当ケアマネジャーからの希望、要望を確認し、個別支援計画の項目に追記を行った。

- ・デイサービス会で、居宅サービス計画が更新された利用者、また ADL 等の状態変化のある利用者の「デイサービス計画書」内容を検討し、必要に応じてプランを変更し記録として残す。※検討内容についてはデイサービス会にて記録として残す。

(評価)

デイサービス会のサーキュラーの中に項目を追加し、利用者の「デイサービス計画書」内容を検討した。対応方法の検討や担当ケアマネジャー、家族へ利用者の対応方法の相談等を行い必要に応じてケアプランの変更を行った。検討内容についてはデイサービス会議録に記録を残した。

1-②“みんなの広場”や相談対応にて利用者、家族の意見を確認しサービスの満足度向上に繋げる。

(評価)

みんなの広場を行い、利用者や家族から聞き取りをした内容で、“入浴時間を臨機応変に対応する”、“散歩や外出先の希望”、“お寿司等の食事面”の要望を聞き取りし満足度向上につながる事ができた。

- ・相談した内容については、利用者、家族にお手紙を送付する。

(評価)

みんなの広場で出た意見を、デイサービス会で検討し、利用者、家族に手紙で検討内容を伝えた。

2.レクリエーションと生活リハビリの充実を図り、デイサービスの魅力づくりを推進する。

(評価)

おやつレクや外出先での歩行訓練など、レクリエーションのレパートリーを増やすことで、生活リハビリの充実を図った。他のデイサービスとの差別化を踏まえたデイサービスの魅力

作りが必要である。

2-①おやつ作り等、利用者と共に制作を中心としたリハビリテーションを年4回実施する。

(評価)

おやつ作り、ペン立て作り等の工作、暑中お見舞いの絵手紙等家族へ気持ちを伝える取り組みを実施し、上半期で4回、下半期4回実施した。利用者からも好評であり、機能訓練にもつながった。

2-②介護情報誌『月刊デイ』等を活用し、利用者個々に合う個別レクリエーション(脳トレ・塗り絵・パズル等)、健康作りの支援を行う。

(評価)

介護情報誌『月刊デイ』を参考にして塗り絵、間違い探し、パズルを実施し、個別レクを行った。健康作りについても『月刊デイ』の記事を紹介し、健康や病気についての知識や対策を提供できた。また、デイサービスに設置してあるヘルストロンを利用して利用者の頭痛や冷え性改善につながったとの感想も頂けた。

・毎月、『月刊デイ』に記載されている健康豆知識について利用者、家族に配布を行う。

(評価)

健康豆知識の紹介を行ったが、配布は5月、6月、10月、11月のみで計画的に実施できなかった。利用者については、デイサービスお帰りの際に、感染症予防、健康講座等行い、健康豆知識を伝える事ができた。

3.専門職として求められる知識、技術を高め、今後のサービス提供に必要な資質を向上する。

(評価)

画的に部所別研修を行う、タミーティングで利用者やケアについて、話し合いを重ねる事で資質向上につながった。

3-①部所別研修を計画的に実施する。 ※別紙年間活動計画参照

(評価)

新型コロナウイルス感染症流行で一部遅れたが、部所別研修を計画的に実施した。

※別紙年間活動実績参照

3-②オリジナルテーマの部所別研修を年1回以上実施する。

(評価)

オリジナルテーマで“チームビルディング”をテーマに研修を行った。研修の中で、スタッフ間のコミュニケーションや気づきを伝えあう事、またお互いを認め合う心理的安全性について学習し、気づきを伝えあう取り組みを行う、言葉使いについてお互い確認しあい話し合う場を持つ等、研修後も取り組みを継続して実施できた。

4.地域、関係機関との連携を図り、地域交流と地域貢献を図る。

(評価)

社会福祉協議会、近隣自治会、会館と連携を図ったが、コロナ禍の影響により地域貢献の機会は持てなかった。近隣自治会への困りごとの聞き取り、会館や小学校への利用者が作成した広告で作ったゴミ箱の配布を行い、地域交流と地域貢献ができないか模索しながら対応した。

4-①地域、関係機関と連携し、地域活動(サロン等)の応援依頼があれば積極的に請け負う。

(評価)

関係機関（社会福祉協議会等）と地域の情報共有、近隣自治会や会館へ困りごとの協力体制について説明を行う機会を持てた。コロナ禍もあり、受け入れや相談はなかった。

- ・地域の関係機関へ挨拶に赴き、地域での困りごとになにか貢献できないか聞き取りを行う。

(評価)

堀会館へ挨拶に赴き、堀会館からの紹介で大堀自治会長にも協力体制があることの説明を行った。地域のサロン活動等で実施内容や運営に困っている、地域としての困りごとに対して協力できる体制があることをお互いで確認できた。

- ・ボランティア活動の受け入れを年2回以上受け入れ、地域とのつながりを作る。

(評価)

ボランティア活動の受け入れについて、社協と連携したがコロナ禍もあり実施できなかった。小学校の家庭科の授業で使用する広告で作るごみ箱を先生が自宅で製作していると聞き取り、介護の日イベントと絡ませてデイサービス利用者で作成し寄付することができた。

(その他)

- ・実績

(各月1日利用 Ave.)

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用平均	6.8	6.4	6.3	6.2	5.5	5.3	5.8	6.0	6.2	5.7	5.7	5.1

: 1日平均 5.9人 (22.4-23.3) であった。新型コロナウイルス感染症の為、デイサービスを9日間休止、大雪の為1日休止、半日営業を1回行った。重度の利用者の受け入れを進めていった中でショートステイ利用の為休まれる方や、レスパイト入院される方等併用で利用される方が多く、実績をさらに低下させる要因となった。

- ・新型コロナウイルス感染症

: 12/17-20, 12/22-26 に新型コロナウイルスが施設内で流行し、デイサービスを休止した。再開後もゾーニングの為、浴室が使えず、入浴せず清拭対応を行う等で対応した。その他、換気の励行、体温の複数回測定、定期的な抗原検査を行い利用者の受け入れをした。

- ・外出

: 感染症に配慮しながら福知山市植物園、初詣、外気浴を実施できた。歩行訓練の為に大谷公園やゆらのガーデンに出かけ、公園内を散策しながら歩行訓練を行う事ができた。

- ・サービス満足度向上の取り組み

: みんなの広場等の聞き取りした内容で、入浴時間の調整、コーヒーの提供等実施できた。新型コロナウイルス感染症で入浴ができなくなった時、プロジェクターで映画を見れる環境を作り昔の時代劇等鑑賞してもらった。また、利用人数が少ない時、スタッフが利用者に寄り添いトランプ等昔の遊びを利用者の中に入って行う事で、利用者にも好評であった。

- ・運営推進会議:

: 年2回実施を行った。家族や地域の方へ普段の利用の様子も含めて意見聴取を行った。

- ・デイサービスの広報活動

: 独自の広報誌を作成し、各居宅事業所に配布を行った。近隣の会館、自治会へ広報誌の配布を行った。広報により3名の新規利用があった。

<来年度への課題>

- ・デイサービス休止の為、再稼働に向け準備を進めていく。

2022年度にれの木園年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	5:特花見(お花見弁当)※行事食 4,6 特花見 4,7,8,9:D 花見 手紙: 行事食同意, 施設協力金同意, 「緊急連絡先/面会確認者」(再確認), 新型コロナウイルスワクチン予防接種同意	10	17-31:にれの木園フォトコンテスト 21:秋の運動会(運動会弁当) 21:D おやつレク 30:特ハロウィン 手紙: 来訪・面会(インフルエンザ・ノロウイルス), インフルエンザ予防接種補助申請書/年度福祉サービス目標活動実績経過報告
5	5:端午の節句料理 16,18,19:D 郊外レク (ゆらのガーデン) 16:特リフレにれ (ガーデンプラザ) ※菜園の種買い。 20:総合防災訓練(避難・通報・消火) [地震・昼間想定] ※消防署立会 20:消防設備点検 23:喫茶にれ 25:チャレンジデー2022 in Fukuchiyama 26:特サークル活動 “書のある暮らし” 手紙: にれ祭り案内	11	7-12:D 郊外レク (福知山市植物園) 11:介護の日イベント 17:喫茶にれ (中止) 21:総合防災訓練(避難・通報・消火) [火災・昼間想定] ※消防署立会 14:特紅葉狩り 21:特インフルエンザ予防接種
6	14:D おやつレク 16-19:D 郊外レク (観音寺) 25:にれ祭り※行事食 ⇒感染症対応の為、規模縮小で実施。 手紙: 来訪・面会 (食中毒)	12	1-25:クリスマスツリー点灯 (実施せず。) 20-25:冬至ゆず風呂 (中止) ※感染症対応の為 25:クリスマス会※行事食 (中止) ※感染症対応の為 27:特餅つき (延期) ※感染症対応の為 30:お正月飾り付け 31:年越しそば 手紙: 面会・来訪(感染症)
7	7:七夕(七夕料理) 18-23:D にれの木園杯 19:特サークル活動 “書のある暮らし” 23:土用の丑 25:喫茶にれ 29:新型コロナウイルスワクチン接種 手紙: 介護保険負担限度額認定証, 介護保険負担割合証, 後期高齢者医療被保険者証確認/D 運推会	1	1-3:おせち料理※行事食 5:特サークル活動 “書のある暮らし” ※書初め 5:D 書初め 5-8:D 郊外レク (一宮神社) 7:七草粥 10:新年会※行事食 14:どんど焼き 27:喫茶にれ 満足度調査返送
8	15:おやつレク 18:府歯科検診 手紙: 敬老式典案内発送	2	3:節分 6:新型コロナウイルスワクチン接種 来期事業計画策定
9	12:敬老式典・集い※行事食 ⇒感染症対応の為、規模縮小で実施 10:お月見 29:喫茶にれ 20:府歯科検診 手紙: 満足度調査発送	3	3:ひなまつり 14:喫茶にれ 6-11:にれの木園杯 28-31:D セレモニー 年度総括/文書(手順書)レビュー

月例行事: 特誕生日会, D ふれあい交流会, みんなの広場, 理美容 [きれい館] → [おかもと], 散髪 Vr, [中止] めがね Vr, シーツ交換 (天理教 Vr)

その他行事: 介護サービス相談員(10回/y) ⇒感染症対応の為、中止及びお手紙による対応。

月例イベント食: 特誕生日会, D ふれあい交流会 (不定期) 日清メニュー

月例業務/会議: 記録 R, 体重測定(1回目:第1週, 2回目:第3週), 入居者採血, 代表者会議※但し、2月,3月は2回開催(2月末,3月末は拡大代表者会議※副L出席), 特養 CW 会議, 特養 NS 会議 (1/2m), SW 会議※随時開催, 施設 Lm※随時開催, 入居選考会議, S 会, 入居者採血, 備品/監視・測定機器点検(月初めの5日間), SQL, 「にれの木園通信」発行※奇数月実習等受入: (社会福祉士) 龍谷大学短期大学部, 佛教大学 (介護福祉士) 舞鶴 YMCA 国際専門学校 (その他) 外国人技能実習

部所別研修を次のとおり開催した。

4	14:特に “身体拘束廃止”	10	
5	31:D “高齢者虐待” 16:特に “目指せオムツフィッター”	11	15:特に “感染症対応” ノロウイルス
6	8,10:D “身体拘束廃止”	12	
7		1	14,16: D “感染症対策～疥癬～” 15-30:特に “感染症対応” 嘔吐, 下痢 (実技) 23-2/21:特に “褥瘡予防”
8	22-9/29:特に “事故苦情防止” 23:D “感染症対策～新型コロナウイルス～”	2	10,11:D “褥瘡予防” 27,28:D “事故/苦情防止” 10-3/28:特に “ケアの基礎知識” 食事介助
9	27:D “チームビルディング”	3	19:特に “高齢者虐待” “身体拘束廃止” 27,28:D “身体拘束廃止” 13:特に: “NL ケア”

にれの木園 災害対策年次報告

<活動実績・評価(年度目標達成度)>

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より予防活動にて防災の意識を高めると共に、災害発生時には救助活動を実施する。

2.取組・対策

[防災]

- ・年2回の総合防災訓練（避難・通報・消火）を予定通り実施し、2回共に、消防署の立ち合いを要請した。春の総合防災訓練に関して、事前日程で水害時シミュレーションを実施したうえで、地震想定での避難訓練を実施した。秋の総合防災訓練に関して、昼間火災の想定で避難訓練を実施し、夜間想定では訓練の参加が難しかったデイサービスの利用者も、避難訓練への参加を行うことができた。なお、春・秋共に、避難者の数を減らしたうえで訓練を実施した。
- ・防火管理者により消防設備自主点検及び避難経路点検ができた。
- ・春季、秋季のEMR.mailでの防災意識向上の啓発を行った。
- ・年2回消防設備業者による設備点検を実施できた。
- ・火災時に連携できる関係機関への協力依頼ができなかった。

[EMR.mail]

- ・EMR.mail（スタッフ緊急連絡網）については、次の通り実施した。
 - ①各スタッフのMailアドレスの登録、変更については施設事務が管理した。グーグルアカウント内のMailアドレス登録、変更は防火管理者が実施した。
 - ②毎月1日、防火管理者がテストメールを作成、送信した。
 - ③テストメールを受信できないスタッフには、防火管理者が個別に確認、再登録した。
 - ④感染対策EMR Level発令の際は、EMR.mailを活用しタイムリーにスタッフへ状況を周知させ、啓発を行うことができた。その他、気象状況（警報・注意報）を適宜送信して、災害に対する意識を高めた。新型コロナウイルス感染症の地域感染状況も伝達できた。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」についてはレビューするも変更点はなかった。
- ・甲種防火管理者については増員なし。
- ・福祉避難所の開設要請があり、1名緊急ショートステイで受け入れを行った。

<来年度への課題>

- ・総合防災訓練実施時に日清医療食品のスタッフにも訓練に参加してもらうようにする。
- ・消防署立会いの訓練に関して、事前にシミュレーションを行っていたため、訓練の流れそのものは把握できていたが、訓練の本番では、スタッフ間の声かけや、防火扉を閉める時間や避難者の誘導などに関しての不備がいくつも確認された。実際の訓練に際して、個々のスタッフが状況を判断した上で、行動に移すことができるようになるための指導も必要である。
- ・水害時シミュレーションについては、地域性を考慮しながら継続して実施し、スタッフの意識を高めていく必要がある。
- ・災害対策マニュアルについて全スタッフへの周知を図るために、総合防災訓練の中にマニュアルの

内容を状況として盛り込み、マニュアルに即した訓練が実施できるようにする。

- ・継続して甲種防火管理者の増員を行う。
- ・ヘルメットなど、避難誘導時に必要な備品を各部所に必要数そろえておく。

<年間活動実績>

月	活動内容
4	1:消防設備の説明(新入スタッフオリエンテーション)
5	20:消防設備自主点検 20:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔地震・昼間想定〕※消防署立会い 20:消防設備点検(指定業者)
11	1:秋季火災予防活動 EMR.m 17:消防設備点検(指定業者) 21:消防設備自主点検 21:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔火災・昼間想定〕※消防署立会い
3	1:春季火災予防活動 EMR.m 31:「総合防災計画」レビュー

高齢者複合福祉施設

晴 風

事業報告

<施設理念>

地域と共に育む“豊かな”暮らし

特別養護老人ホーム 六人部晴風
(晴風 ショートステイ)
事業報告

<年度福祉サービス目標>

1.質の高い介護を目指す。

(評価)

入居者個々とのコミュニケーションを通して、思いや要望、要望に結びつく事柄を聞き取る努力はできた。また、コミュニケーションを積み重ね、寄り添うケアから入居者との間に信頼関係が生まれ、様々な気付きを得ることができたこと等、目標達成に向けて意識を高く持つことができた結果、より質の高い介護に繋がったと考える。

- 1-①入居者個々とのコミュニケーションから要望を汲み取り、企画し実現する。なお、企画については、各グループ内で検討し、グループからの発信により、他職種と連携する。

(評価)

上半期は、事業計画の目標に対する意識の低さもあり、入居者からの要望を汲み取り、実現できたケースはなかった。

下半期は、グループ会議毎に説明と周知を図り、1つでも実現できるよう入居者との関わりを持ち、コミュニケーションの中から、具体的な要望や、要望に繋がるヒントを得ることができた。しかし、感染症の発生による対応に追われ、企画に結びつける時間と余裕がなく、結果、実現に至ったケースはなかった。なお、汲み取った要望を企画できていない状況であり、グループから他職種へ発信することはなかった。よって目標は達成できなかった。

しかし、自分で思いを話せない入居者に対して、要望を汲み取ることは難しく感じたが、コミュニケーションを図る、傾聴する意識を持って接することはできた。

- ・入居者個々の要望の中から優先順位を定め、随時、他職種と協働し、実現する。

(評価)

上半期、下半期共に汲み取った要望を企画できていない状況から、他職種へ発信、実現もできなかった。よって、目標は達成できなかった。

今後も、入居者個々の思い、要望を傾聴し、他職種が関わり、実現できる時期を見極め、1つでも多くの要望を実現できることで、入居者個々の満足に繋げていく必要がある。

(ケアワーカー)

2.情報共有を図りながら、入居者個々のケアの方法を探り、自立支援を念頭に、全体のケアの質を向上させる。

(評価)

入居者の状態変化に合わせ、安全面を最優先とした介助方法を探ることができた。また、自立支援を念頭に検討を重ねることで、全体的なケアの質の向上に繋がったと考える。

さらに他職種からの助言に対しても、相談しながらケアの方法を見直し、実施できるようにもなってきたこと等、目標に対する意識向上もみられた。

2-①担当ケアワーカーを中心に、個別ケアを充実させる為にケアの方法を探り、ケアコラボに反映する。

(評価)

個別ケアについて検討した内容は、「個別ケア」の表題を付けて担当ケアワーカーから発信することとした。

担当者として受け持ち入居者の日々の生活状況の把握はできた。さらに担当ケアワーカーや他職種からの情報等を参考、共有したことでケアの周知、統一を図ることができた。よって、目標に対する意識向上もみられ、目標は達成できたと考える。

- ・身体的な介助方法(ノーリフティングケアを基本)は、随時ケアワーカー間で確認する。

(評価)

ノーリフティングケアを基本とした介助については、まだまだ意識が低い現状である。しかし随時、入居者の介助方法を検討する意識を持てるようになってきた。よって、目標に対する意識向上もみられたことから、目標は達成できたと考える。

2-②スタッフのケアの質を向上させる為、部所別研修を計画的に開催する。

※別紙年間活動計画参照

(評価)

今年度計画していた研修は、感染症発生の影響と、スタッフ体制が整わなかったことが理由で、延期しながら調整し実施した。

7月実施の“褥瘡予防”から繋がる内容で予定していた8月“適切な体位変換”(オリジナルテーマ)は、8月後半より感染症の発生に伴い中止した。

9月実施の“感染症対策～インフルエンザ・新型コロナウイルス～”は、11, 12月に再調整した。

2月実施の“身体拘束廃止”は3月に再調整した。

年間を通し、各グループ会内で実施する研修について、会議不参加者には資料配布による個人学習スタイルを主とし、学んだことや感想を記入して提出することで全員参加ができ、知識を深めることができた。※「2022年度晴風年間活動実績」参照

(ナース)

3.QOLを充実すると共に、入居者の健康管理に努める。

(評価)

健康管理不足による急な受診や急変等はなかった。日々定期的V/Sチェックやケアワーカーと連携できた事で異常の早期発見ができ、必要に応じて受診や嘱託医に報告できた。

8, 12, 1月に新型コロナウイルス感染症に計9名の入居者が感染したが、全員重症化することなく収束した。しかし、感染症対応や対策によりQOLの充足に向けた取組みができない月があった。

3-①年2回、全棟利用者参加の“大リハレク大会”を実施する。※5月, 10月に実施する。

(評価)

5/25屋内にて大リハレク大会を実施できた。日常とまた違った環境で実施することで、入居者の生き生きとした表情や姿が見られた。

10/21には屋外にてゲートボール大会を実施し、車イスから降りてマレットを振られ、楽しんでおられる方もいた。全棟の利用者が集まる為、感染症対策もしっかり行い実施できた。

- ・上記以外で“唄歌いの日”を各棟月1回実施する。

(評価)

感染症にて数回実施できなかつたが、感染症拡大防止を考えると実施しなくて良かったと思う。毎月実施しているリハレクよりも“唄歌いの日”を楽しみにされる利用者が多く、今後は曲のレパートリーをさらに増やし、タイムリーに歌集を更新する必要がある。

- ・入部希望者で作業レクを実施する。

(書道倶楽部：各棟年2回・絵手紙倶楽部：各棟年2回)

(評価)

上半期に各棟で1回ずつ書道倶楽部と絵手紙倶楽部を実施できた。作製してもらった絵手紙は残暑見舞いとして家族に送ることができた。

12月にも絵手紙倶楽部を開催し、年賀状として家族に送る予定であったが感染症によりできなかつた。しかし、2月に季節に合う絵に変更し、実施できた。

1月には、書初めとして書道倶楽部を開催できた。今回、倶楽部活動を実施することで、入居者の新たな一面を知ることができた。また、入居者自身の気分転換にもなり楽しんでもらった。3-②外気浴の為に散歩を実施する。(入居者1人月1回・年7回以上実施する)

(評価)

新型コロナウイルス感染症の対応により、計画的に外気浴が実施できない月があり、入居者1人年7回以上の実施はできなかつた。

- 3-③全入居者の下肢の状態を毎月観察し、必要に応じてフットケアを実施する。

(評価)

新型コロナウイルス感染症の対応をしている棟はその間のチェックができなかつたが、それ以外は計画的に実施できた。毎月観察を実施することで、白癬や傷、浮腫等早期発見でき、外用薬の開始や処置を行えた。また、下肢の爪切りも定期的に行うことができ、爪のトラブル(爪がひっかかったり、爪がはがれたり)が減少した。

- 3-④専門職として知識、ケア向上の為に、外部講師による勉強会を年2回行う。

(評価)

新型コロナウイルス感染症が福知山市内でかなり蔓延し、外部講師を依頼することができなかつた。Web開催や資料をもらい、内部で実施する等方法を検討したが、依頼先も感染症対応をされておられ、難しい面があり実施できなかつた。

(ソーシャルワーカー)

- 4.他職種とコラボして、入居者個々に寄り添った支援をする。

(評価)

入居者個々の思いや考えに寄り添うことで気付く様々な事柄に対して、思いを傾聴する時間を確保し、最善策を導き出す努力はできた。また、知り得た情報を他職種と共有する等、意識して動くことができた。

- 4-①入居者個々の要望を汲み取り、実現の為に必要な支援及び、連絡等の調整を行う。

(評価)

汲み取れた要望に対し、必要に応じた支援ができた。なお積極的に外出できない状況下、家族との連絡、調整を行った上での対応はなかつたが、入居者個々とコミュニケーションを十分に図ること、関ることを心掛け、家族との連絡を密に入居者個々の要望はできる限り共有するよ

う心掛けた。感染症状況が影響し、大きな動きはなかったものの、入居者個々に寄り添う気持ちで接する時間を随時確保することができた。

〔晴風ショートステイ〕

5.空床を無駄なく活用する。

(評価)

年間を通して、空床を1日でも埋める為の動きができなかった。

5-①登録者の確保に努め、空床や利用キャンセルが発生した場合は、速やかに居宅介護支援事業所へ空床状況を電話連絡し、スムーズな利用に繋げる。

(評価)

年間を通して、新規登録者獲得に動けなかった。なお、感染症の拡大が深刻化する中、積極的な動きは難しかった。

<その他>

・2022年度年間稼働率

: 定員 70 床に対し、稼働指示床数は 60 床であった。現状は 7 月までは 40 床、8 月からは 50 床(ショートステイ空床型)での稼働となった。

【年間稼働率】 ※60 床 (%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稼働率	61.5	63.6	66.4	66.6	66.6	68.2	69.7	71.5	74.6	75.9	75.9	79.5

・救急搬送: 1 件 (特養: 1 件・ショートステイ: 0 件)

: 状態の急変に対し、救急要請したケースが 1 件あった。

・行政報告: 事故 5 件 (骨折 3 件・頭部打撲 2 件)

: 骨折については全て自己転倒により受傷されたケースである。日々の歩行状態は不安定さが増し、未確認の内に転倒されることもあり、転倒リスクが高いことを周知しながら様子観察していた中で発生した。内 1 件は、感染症対応中の朝方、居室掃き出し窓より外へ出て転倒されたケースであるが、日々の様子からは、外へ出てしまわれることへの予測ができなかった。しかし、感染症対応中であり、居室外へ出られないストレスも加わった可能性もある等、様々な可能性を推測しつつ、事故を未然に防ぐ為の対策を継続して行う必要がある。

・物品破損

: 発生件数: 30 件 (過誤 10 件・事故 12 件・不明 8 件)

入居者の私物破損について、スタッフの不注意による件数は前年度に比べて減少したが、施設備品の破損については、スタッフの不注意によるものと劣化に伴うものもあり、業務に支障のないよう、早期修繕に努める必要がある。

・晴風敬歡祭 2022

: 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度は開催できなかった。

全スタッフが協力し、入居者に喜んで頂けるように一丸となり、皆の心に残る行事にするべく、準備をし始めた矢先の中止となった。

また、一旦感染症が入ることで、ほぼ 1 ヶ月間はその対応に負われ、入居者には制限の多い生活を余儀なくさせ、スタッフもまた身体的にも精神的にも辛い日々が続いた。

スタッフの気持ちを維持する意味合いも含め、入居者には少しでも楽しいひと時を過ごして頂きたく、急遽 10 月に敬老のお祝い会を開催することとなった。

敬老のお祝い会では、賀寿紹介、施設長の挨拶と豪華な食事の提供によるお食事会とし、楽しいひと時を過ごして頂けた。

・施設マニフェスト

：“心地の良い挨拶をします。”

- ・ただ挨拶をすれば良いのではなく、心が穏やかになるような、そんな心地の良い挨拶を心掛けることとした。

厳しいスタッフ体制の中で気持ちに余裕がなく、入居者に対してもスタッフ間でも、笑顔で挨拶できなかつたと反省するスタッフもいた中、朝ミーティングで唱和することにより、意識付けになったと振り返るスタッフも多くあった。

：“訪室マナーを守ります”

- ・入居者にとっての「家」であり、プライバシーを守ることが重要であると考え、尊厳ある暮らしの提供から、当たり前ではあるが、居室への訪室の際はマナーを守ることとした。また、Office への出入りの際もマナーを守ることが全スタッフが意識した。居室への訪室の際、マナーを守れているスタッフがほとんどである中、慌てて訪室する際、ノックも挨拶もなく訪室する場面もあり、気付いたスタッフより注意を促す等、意識して取組めた。

：“入居者の整容に努めます”

- ・全身の姿に気を付け、いつも気持ち良く素敵な入居者で居て頂けるよう努めることとした。胸元が汚れた衣類の着用や、汚れても更衣できていない状況も確認され、気付いたスタッフが率先して対応する等、スタッフ個々の意識の差は否めず。またコロナ禍、家族や第三者の目が行き届かない状況の中、整容面への配慮に欠けていた。

3 項目、評価しづらいものではあるが、具体的取組みとして、3 ヶ月毎に自己評価をする予定で進めていたが、検討に留まり実施できなかった。

・かつら棟の再稼働に向けて

：“8 月からの再稼働となった。入居選考会議で選考された方のみならず、臨時の入居選考会議の開催もあり、今年度中に 50 床稼働を目指して動いた。

22.8-23.3 で入居は 12 件あるも退居が 4 件あり、50 床には至らなかった。

次年度は早急に 50 床の稼働を目指し、さらに 60 床稼働に向けて早期に計画を立てて動く必要がある。

<来年度への課題>

(ケアワーカー)

- ・介護現場において、リーダーを中心として、ケアワーカー個々が意見や考えを出しやすい姿勢と環境作りを行い、グループ内で起こる様々な事案については、その解決に向けて、まずはグループ内で話し合い、様々な事案を解決に導く必要がある。
- ・担当ケアワーカーとして受け持ち入居者の状態を把握すると共に、個別ケアを重視した意見を発信し、グループ内、他職種の意見や助言等も参考に必要な検討を重ね、最善の方法で迅速な対応を目指す。

- ・ケアを通して発生する内出血や剥離等、発生時はその原因追究とあわせて、個々のケアの振り返りと、丁寧なケアを心掛ける必要がある。さらには継続して経過観察していく中、悪化を防ぐ為に注意すべきことをグループ内で話し合い、迅速に実践する必要がある。

(ナース)

- ・皮膚トラブルが増えている為、定期的に皮膚チェックを実施し、トラブル予防もしくは早期治癒できるようにする。
- ・人気の高い“唄歌いの日”と倶楽部活動の回数を増やし、更なる QOL の充足に努める。

(ソーシャルワーカー)

- ・入居者のニーズの複雑化，多様化，高度化にも、的確に対応できる知識と、その方法，アイデアを持ち合わせる必要がある。
- ・入居者の要望を引き出せるように傾聴し、その実現に向けて支援する。また、外出支援では、感染リスクと共存する社会へと移行しつつある為、確実な感染予防策を講じた上で、他職種との協働により、1人でも多くの要望を実現する。

[晴風 ショートステイ]

- ・空床を無駄なく活用する意識を持ち、スムーズな利用に繋げる。
- ・利用にあたり、家族や担当ケアマネジャーと情報共有を行い、利用時は丁寧、適切なケアや支援を行うことで、顧客満足を図る。

晴風 調理
(味工房はるかぜ)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.衛生管理、感染症対策の徹底に努め、安心して安全な美味しい食事を提供する。

(評価)

業務体制により、厨房内、居住棟の清掃が不十分な時もあったが、体制が整っている時に清掃をし、衛生管理の意識は保ち徹底できた。食材、調理済みの料理の温度管理をしっかり行い、また味の確認を出勤スタッフで行い、安全で美味しい食事を作るように努めた。

1-①各棟のフードプロセッサーとミキサーは毎日昼食提供後、まな板は使用後に次亜塩素酸ナトリウム液にて消毒を行う。

(評価)

フードプロセッサーとミキサーの消毒は不十分な時があり、声をかけ合いできるようにした。まな板は使用後の消毒を確実に行った。

1-②ユニットキッチン清掃はユニットの担当スタッフが毎月行う。清掃箇所のチェックリストを作成し、数日に分け、清掃できる日にそれぞれ行っていく。

(評価)

ユニットキッチン清掃は3月、4月意識が薄く、全箇所実施できなかった。以後、スタッフ同士で声を掛け合い担当スタッフだけではなく、棟に入ったスタッフが昼食準備後に少しずつ行った。

1-③納品時、「発注の控え」と照らし合わせ、業者と一緒に検品を行い、食材、賞味期限をしっかり確認する。記載事項と相違があった場合や判断がつかない場合は、他の調理スタッフに確認を行う。

(評価)

「発注の控え」と照らし合わせた検品はできている。業者の納品の間違いに気付いたが5件あった。賞味期限についても、納品時、検品と合わせて確認できた。

1-④厨房内の曜日ごとの清掃を早出スタッフが確実にを行う。勤務体制により、清掃ができない時は別日に清掃ができるように調整する。

(評価)

下半期から早出勤務がなくなったが、再検討し、曜日ごとの清掃を行うことにした。時間がなくできない日もあった為、計画通りにできるよう朝ミーティングで清掃箇所を決め実施できた。

1-⑤部所別研修を実施する。※会議内で実施

(評価)

実施できた。2月に予定していた“身体拘束廃止”は当日欠勤スタッフがいた為、3月に延期して実施した。

2.利用者との関わりを大切にし、個々の体調の把握と共に、嗜好を取り入れ、喜んで頂ける食事を提供する。

(評価)

ケアコラボ及び朝ミーティングで入居者の体調の把握に努めた。入居者との関わりから得た趣向を取り入れた料理を、お楽しみメニューを中心に提供する事ができた。シェフの気まぐれメニューでは趣向をこらした料理を提供し喜んで頂けた。

- 2-①食事時には食事介助を通して、入居者の食事の様子や感想をケアコラボに残して他職種と共有する。なお情報は調理スタッフ間で共有する。

(評価)

食事介助に入った時に食事の様子を観察、声掛けを行い、変わったことや食事の感想をケアコラボに記録し、調理スタッフで共有できた。

- 2-②“シェフの気まぐれ”，“あおぞらガーデン”を年4回ずつ開催する。

(評価)

あおぞらガーデンは感染症対応の為、2回延期してしたが年4回実施できた。

シェフの気まぐれは3回は予定通り開催できたが、8月は感染症対応の為中止した。

<シェフの気まぐれメニュー>

6月 ミラノ風ドリア,サーモンマリネ,枝豆の豆乳スープ,プリンアラモード

11月 ご飯,よだれ鶏,きのことサラダ,ミニラーメン

3月 たこ焼き,おにぎり,フルーツ白玉

- 2-③「みんなの広場」の意見や、嗜好調査で聞き取った意見を参考に、“晴風お楽しみメニュー”で利用者の嗜好を取り入れた食事を提供する。

(評価)

「みんなの広場」、また各自入居者に聞き取りを行い、嗜好に合わせた食事を“晴風お楽しみメニュー”で提供できた。さらに感想も調理日誌とケアコラボに残せた。“晴風お楽しみメニュー”は毎月開催予定であったが、感染症発生の為、10月、11月は中止となった。

- 2-④入居者、スタッフの意見により、改善が必要な料理については全員で話し合い改善を行う。

必要に応じ調理実習を行う。

(評価)

意見で、汁物の味付けが薄い時や濃い時があったので、味付けにバラつきがなくなるように毎回、味付けの確認を出勤スタッフで行った。都度の確認を実施した為、調理実習は実施していない。

- 3.利用者の健康状態を把握し、個々に合った栄養管理を行う。

(評価)

利用者の健康状態を把握する為、食事状況の観察や他部所と連携は図れた。しかし、モニタリング等が不十分であった為、個々にあった栄養管理ができなかった。

- 3-①個々に合った適切な栄養ケアマネジメントを行う

(評価)

栄養ケアマネジメントは進めることが難しく不十分ではあったが、胃を切除された入居者の後期ダンピング防止（術後の低血糖症状を引き起こす症状）の為、分割食を必要とする入居者に対しては、他部所と連携し、適切な栄養ケアマネジメントが実施できた。現在も後期ダンピングは起きずに経過している。

- 3-②既往歴、体調の変化を把握し、状態に合わせた食事の提供を行う。

(評価)

その都度、他部所と連携し、状態に合わせた食事を提供し、調理内でも周知を図った。

3-③ターミナルケア期には、思考調査を参考にし、本人の趣向を重視した献立を作成することで、最後まで食べる楽しみを持って頂く。

(評価)

ターミナルケア期の入居者には、本人の趣向を重視した献立を作成し提供できた。ターミナルケア期になられる前に生活相談員がから家族に趣向品を依頼し、届き次第、提供することができた。

<来年度への課題>

- ・利用者との関わりをより増やし、体調、嗜好の把握をしていく。
- ・厨房内の整理を行い、業務の見直しをする必要がある。
- ・感染症が発生した際の対応を全員が確実に出来るようにする必要がある。

(栄養士)

- ・体調の変化に合わせて入居者の状態を把握する必要がある。
- ・ターミナル期まで、好きな物を中心に提供できるよう詳細な嗜好を把握する必要がある。
- ・栄養ケアマネジメントの実施が必要となる為、栄養士業務を整理する。

2022 年度晴風年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	4:花見外出 :花見(笑顔満開弁当)※行事食 8:京都府知事選不在者投票所開設	10	4:敬老のお祝い会 21:大リハレク大会 ※屋外 27:あおぞらガーデン
	手紙:行事食同意/緊急連絡先再確認についてのお願い/面会についてのお願い		手紙:面会についてのお願い/敬老のお祝い(食事会)について/インフルエンザ予防接種に係る同意及び補助申請について/加算算定変更について/年度福祉サービス目標活動実績経過報告 ※各グループ会
5	5:端午の節句(笑顔あふれるこいのぼり弁当) ※行事食(グループ企画) 18:総合防災訓練(火災・昼間想定) ※地震,水害勉強会 ※自主訓練 25:大リハレク大会 ※屋内 27:あおぞらガーデン	11	11:介護の日 :インフルエンザ予防接種 16:総合防災訓練(火災・昼間想定) ※水害勉強会 ※消防署立会 24:もみじ狩り(外出・秋の味覚たくさん弁当) ※行事食
	手紙:面会についてのお願い ※各グループ会		手紙:面会についてのお願い ※各グループ会/Xmas ツリー準備
6	14:結核検診 23:“シェフの気まぐれの日”	12	1-24:Xmas ツリー点灯 22-26:冬至ゆず風呂 24:Xmas 会 ※行事食 30:正月飾り付け 31:年越しそば
	手紙:面会についてのお願い/食品の差し入れについてのお願い/管理医師変更のお知らせ/ ※排泄バッグ購入/害虫駆除剤置き換え		手紙:面会についてのお願い ※各グループ会/害虫駆除剤置き換え
7	6:参院選不在者投票 7:七夕(グループ企画) 19:土用の丑 27:あおぞらガーデン	1	1-3:おせち料理※行事食 7:七草粥 13:新年会(新春・福くるうさぎ弁当) ※行事食 :新型コロナワクチン接種(5 回目)
	手紙:面会についてのお願い/新型コロナウイルス感染症ワクチン 4 回目接種に係る意向確認について/介護保険負担限度額認定証確認/介護保険負担割合証確認 ※各グループ会		手紙:面会についてのお願い
8	5:新型コロナワクチン接種(4 回目)	2	3:節分(巻寿司) 6-20:ふれあい福祉フェスタ ※作品出展
	手紙:面会についてのお願い/利用料金変更のお知らせ		手紙:面会についてのお願い/来期事業計画策定 ※各グループ会/手順書レビュー
9	20:彼岸(おはぎ)	3	3:ひな祭り(グループ企画) 15:“シェフの気まぐれの日” 22:彼岸(ぼたもち) 30:あおぞらガーデン
	手紙:面会についてのお願い ※各グループ会/手順書レビュー		手紙:面会についてのお願い/理美容価格改定のお知らせ ※各グループ会/年度総括/文書(手順書)レビュー

月例行事: みんなの広場(益成さ・四方隆) ※11, 12, 1, 2, 3月は、新型コロナウイルス感染症状況及びスタッフ体制が整わず中止。
 介護サービス相談員(四方隆) ※新型コロナウイルス感染症により来訪なし。
 いずみ会ボランティア ※新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止。手紙を 5 回頂いた。
 理美容 きれい館(5月・6月) ヘアサロンおかもと(8月・9月・11月・12月・2月・3月)
 カットハウス WAVE(4月・10月・1月) ※7月は、新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止。
 買物ツアー PLANT3(ニーズに合わせて実施) ※新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止
 月例イベント食: “晴風お楽しみメニュー”(月 1 回) ※10,11 月は、新型コロナウイルス感染症状況及びスタッフ体制が整わず中止。
 その他イベント食: セレクトメニュー(月 1 回)
 月例業務/会議: 記録レビュー
 体重測定(第 1 週: ひのき・かえで)(第 2 週: かつら) 備品点検, 監視・測定機器点検(第 2 週)
 空心病社 行動規範唱和 週間(第 3 週) ユニットキッチン清掃(各棟月 1 回)
 代表者会議 ※9,1 月は新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止。 調理会議, スタッフ会議(書面にて)
 NS 会議 ※毎月開催から、部所別研修開催に合わせての開催に変更。 ※11,12,1 月は、新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止。
 入居選考会議 ※2 月は晴風選考者がなく中止。 拡大代表者会議(10月・2月・3月), ソーシャルワーカー会議(5月・7月)
 SQI(特養:四方隆・調理:田中洋), 「そら」と「かぜ」便り ※1 月年賀
 その他: リハレク(各棟月 2 回), “唄歌いの日”(各棟月 1 回) ※1 月は新型コロナウイルス感染症状況を鑑みて中止。
 書道倶楽部(各棟年 2 回), 絵手紙倶楽部(各棟年 2 回)
 サービス担当者会議

部所別研修を次のとおり開催

4		10	13:調晴“事故/苦情防止” ※会議内
5	20,24,25:特晴“高齢者虐待”, “身体拘束廃止” ※会議内 13:特晴“高齢者虐待”, “身体拘束廃止” ※会議内	11	17,22,24:特晴“感染症対策~感染性胃腸炎~,インフルエンザ” 10:調晴“感染症対策” ※会議内
6	17:調晴“感染症対策” ※会議内	12	16,19,21: “感染症対策~新型コロナウイルス~” ※会議内
7	19-29:特晴“事故/苦情防止” ※会議内 19:調晴“褥瘡予防” ※会議内	1	
8		2	13,15,17,18:特晴“身体拘束廃止” ※会議内
9		3	9:調晴“身体拘束廃止” ※会議内

晴 風

災害対策年次報告

<活動実績・評価(年度目標達成度)>

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より防災の意識を高めると共に、予防活動、救助活動を実施する。

2.取組・対策

[防災]

- ・総合防災訓練(避難・通報・消火)を年2回、実施した。

5/18 総合防災訓練は、感染症拡大防止により利用者を誘導しない設定をして自主訓練を実施した。表札を使って点呼を実施したが、表札不要者や抜き忘れなど、点呼の不確実性が想定されることが分かった。

11/16 総合防災訓練は、計画通り利用者を誘導する設定にして消防署立会いで実施した。基本的な人命、通報、消火、避難と、その優先順位を徹底する訓練ができていなかった。また、館内放送を連携の手段として訓練をしたが、自火報により駆け付けることや口頭により連携する訓練ができていなかった。

- ・防火管理者による防火機器自主点検及び避難経路点検を年2回(10/14・3/24)実施した。
スプリンクラー設備故障については、1/12、1/13 工事、2/8 消防署確認済。
誘導灯の電池については、電池交換に向けて見積中(ひのき棟を除く)。
屋外設置の送水口標識(スプリンクラー設備)に色あせがあり、修繕して取付済。
- ・消防設備点検業者による消防設備等点検を年2回実施した。

[EMR.mail]

- ・EMR.mail(スタッフ緊急連絡網)については、次の通り実施した。
 - ①各スタッフのメールアドレスの登録、変更については総務部が管理した。
 - ②毎月1日、防火管理者がテストメールを作成し送信した。
 - ③テストメールを受信できないスタッフには、防火管理者が個別に確認した。
 - ④感染対策 EMR Level 発令の際は、EMR.mail を活用し啓発した。その他、気象状況(警報・注意報)を適宜、送信して、災害に対する意識を高めた。
総合防災訓練の開始と終了時、EMR.mail を送信した。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」、「避難確保計画」の変更はなかった。
- ・新入スタッフ施設オリエンテーションにて非常災害時の対応に関する研修を実施した。
- ・火災通報装置の使用方法の確認を年2回、実施した。
- ・甲種防火管理者の増員はなかった。
- ・地域の消防団(中六人部分団)との連携に向けての準備に進展はなかった。
- ・福祉避難所の開設要請はなかった。

<来年度への課題>

[防災]

- ・災害発生時に備えて、更に総合防災訓練の内容を充実させ、本番さながらの状況を想定して実施する必要がある。避難行動の基本を周知徹底する。
- ・防災関係設備等の取扱を全スタッフへ継続的に周知する必要がある。また、引き続き、福知山市防災アプリを全スタッフにインストールしてもらうよう努める。
- ・非常食の内容を検討する必要がある。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」、「避難確保計画」の内容を周知する必要がある。
- ・災害時における地域との協力体制を構築する必要がある。

<年間活動実績>

月	活動内容
4	1:非常災害時の対応に関する説明（新入スタッフ施設オリエンテーション） 26:消防署との打ち合わせ
5	18:総合防災訓練（避難・通報・消火）〔火災・夜間想定〕※自主訓練 火災通報装置の使用方法の確認 27:消防設備点検業者による消防設備等点検
10	14:防火機器自主点検及び避難経路点検 28:消防署との打ち合わせ
11	<秋季火災予防運動> 16:消防設備点検業者による消防設備等点検 総合防災訓練（避難・通報・消火）〔火災・昼間想定〕※消防署立会
3	<春季火災予防運動> 24:「総合防災計画」、「避難確保計画」のレビュー 防火機器自主点検及び避難経路点検

高齢者複合福祉施設

えるむ

事業報告

<施設理念>

「ありがとう」にあふれる、

地域で創めるこれからの暮らし

特別養護老人ホーム えるむ
(えるむ ショートステイ)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.専門職としての質を向上させ、安心、安全なサービスを提供する。

(評価)

専門職としての質の向上の為、部所別研修、褥瘡、介護技術の勉強会を行うことができた。しかし、急なADLの低下に対する支援方法の検討が早期にできなかった結果、褥瘡が2件発生した。また昨年度よりも事故件数が増加し、安心、安全なサービスが提供できたとは言えない。次年度、スタッフ同士で介護技術の確認や相談、支援での気づきや悩みを共有する事で、安心、安全なサービスを提供する必要がある。

1-①フロア会、ナース会にて是正処置内容含め再確認を行い、周知徹底をする。

(評価)

各会議にて、事故、是正処置内容を全てではないが再確認することができたが、是正処置内容が検討されていない事故もあり、再確認できないケースもあった。

- ・事故発生後、スタッフ（フロアリーダー、ユニットリーダー、当日リーダーのいずれかの者）と発生理由の分析を行い、随時、ミーティングを開催して是正処置内容を検討し、ケアラボにて共有する。

(評価)

事故発生後、是正処置内容を早急に検討する意識が薄く、随時、ミーティングを開催して検討できなかったが、事故内容、経過は当日リーダーに報告し、ケアラボで事故内容の情報を共有した。今後、是正処置内容を当日中に話し合い、ケアラボに申し送る必要がある。

1-②2カ月に1回褥瘡についての勉強会をフロア会、ナース会で実施し、新たな褥瘡発生者0名を目指す。

(評価)

8月新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い勉強会を中止した以外、4月に購入した書籍からテーマを持って勉強会を開催することができたが、下半期、褥瘡が2件発生した。次年度も、引き続き褥瘡発生者0名を目指し取り組む必要がある。

【勉強会テーマ】

- ・ 4月：“褥瘡はなぜ発生するのか”
- ・ 6月：“環境的要因のOHスケールを用いてアセスメント”
- ・ 10月：“OHスケールからのリスク確認”
- ・ 12月：“ポジショニング実施時の確認事項”
- ・ 2月：“ポジショニング実施時の確認事項振り返り”

1-③フロア会、ナース会にて、看取り期に関する支援内容を1名に対して年2回以上検討を行う。

対象利用者は、各フロアリーダーが選定する。

※検討資料は「私の姿と気持ちシート」を用いて検討する。

(評価)

フロア会、ナース会毎にて、全入居者に対し年2回以上看取り期に関する検討をすることができた。今年度、3件のターミナルケアを実施し、実際「音楽を流す」、「家族写真の設置」、「猫の写真を居室に飾る」、「阪神タイガースのDVDを映す」を実践することができた。

1-④スタッフの部所別研修を計画的に実施する。

※別紙年間活動計画参照

(評価)

計画通り実施できたが、開催した時間が10-15分程度と短く、特に外国人スタッフには内容を十分に伝え切れていない研修もあった。今後、事前に研修資料を配布すると共に、習熟度を確認する方法を考える必要がある。

(ケアワーカー)

2. 利用者との関わりを大切にし、介護技術の向上をする。

(評価)

利用者とのコミュニケーションを取り、ニーズを聞き出す取り組みを行うことで、フロア企画に繋げることができた。介護技術の向上の為、毎月、介護技術の書籍(目で見て分かる介護術)を用いてレクチャーを行い、基本動作となる介護技術の統一を図ることはできたが、スタッフ個々の介護技術の相談や介護に対する悩み等までの確認はできなかった。次年度、介護技術、悩み、業務全般の相談を行える環境を整える必要がある。

2-①フロア会にて、次月の「ケアプラン」更新者の利用者担当がモニタリング内容を伝え、参加スタッフで支援内容を検討する。

※利用者担当がフロア会欠席の場合、事前に意見照会をフロアリーダーに提出する。

(評価)

利用者担当がモニタリング内容をフロア会で伝え、日々の支援内容を検討、共有することができた。

- ・フロア会にて、評価、検討した内容をサービス担当者会で伝え、他職種の意見を確認する。他職種の意見はケアラボで申し送り共有する。

(評価)

フロア会内で検討した内容をサービス担当者会にて伝えることができ、また、他職種の意見や内容を、ケアラボで申し送り共有することができた。

2-②利用者の希望に沿ったフロア企画を年に1回以上実施する。

(評価)

※別紙年間活動計画参照

利用者の希望に沿ったフロア企画を年に1回実施でき、各フロアの利用者から、「面白かったよ」、「おいしかった」と感想を聞くことができた。

2-③毎月、業務内にて全ケアワーカー対象の介護技術(実践)の勉強会を実施する。

(評価)

新型コロナウイルス感染症に伴い中止した月以外は、書籍(目で見てわかる最新介護術)の内容から、介護技術の勉強会を開催できたことで、基礎となる介護技術を知る機会となった。

4月：“移動・移乗介助”

5月：“起き上がり動作”

6月：“バランスを取りながら前へ進む”

- 7月：“身体を抱えて車イスに移乗”
- 9月：“おむつ、尿取りパッドをあてる”
- 10月：“横に座って食事介助をする”
- 11月：“バイタルサインの測定”
- 12月：“入浴・全身清拭”
- 1月：“前開きのシャツの着脱介助”
- 2月：“重心と支持基底面”
- 3月：“色々な場所での移動介助”

(ナース)

3.利用者の機能低下防止に向けた、根拠に基づく看護ケアを提供する。

(評価)

ナース会内で利用者に必要な機能低下防止訓練を検討し、検討内容に即した勉強会を行い、訓練の目的や効果を理解した上で、ROM 訓練、ハンドマッサージ、レクリエーションを実施し、機能維持に努めることができた。

3-①年に2回の屋内リハレク大会を実施する。(5月・10月)

(評価)

5月(22.5.23:オリーブフロア(8名)・22.5.30:ポプラフロア(5名)), 10月(22.10.17:オリーブフロア(8名)・22.10.31:ポプラフロア(5名))に屋内リハレク大会を計画通り実施でき、入居者からは、「楽しかった」、「来て良かった」と喜んで頂けた。

3-②ナース会開催時に、機能低下防止訓練における基礎知識の勉強会を行う。

(評価)

ナース会でROM 訓練、レクリエーション効果、ラジオ体操効果について勉強し、知識の向上を図ることができた。

- ・ケアワーカーに伝える必要がある内容をナース会実施月に、伝達、レクチャーを行う。

(評価)

機能低下防止訓練の伝達内容を精査し、上肢のROM 訓練の資料をリーダーに配布を行い、伝達、レクチャーを行うことはできたが、伝達やレクチャー方法、レクチャー後の確認をする必要があった。

(ソーシャルワーカー)

4. 利用者のニーズを聞き出し、ニーズに沿った支援を提供する。

(評価)

利用者から、「何かしたい」、「安心して暮らしたい」等の言葉を聞くことができ、ケアプランに反映することで、ニーズに沿った支援を提供することができた。

4-①毎月、ニーズに関する情報収集のラウンドを行い、実施可能なニーズに関して、他職種と協議、検討をして実施する。

(評価)

毎月1回以上、情報収集ラウンドを行い、「墓参りに行きたい」、「餃子が作りたい」のニーズに対して、他職種と相談、検討し実施できたが、「外出がしたい」というニーズは、3月に

聞き取りを行い、3月末に外出予定で他職種と調整するも、ソーシャルワーカーの業務都合により外出することができなかった。

4-②半期に1回以上、フロア会にてケアプランのモニタリング方法等の勉強会を実施する。

(評価)

フロア会にて、半期に1回勉強会を実施したことで、モニタリング方法は伝えることができたが、測定、評価、対策、改善の点においての文章内容に大きな変化は見られなかった。

【勉強会テーマ】

22.9 “PDCA サイクルに基づくケアプランの作成” “モニタリングの重要性”

23.3 “伝えたい内容を構成する文章”

4-③利用者と共に、季節の野菜や花作りを楽しむ。

(評価)

22.7.9 利用者と一緒に花の種まきを行い、利用者からは「土を上にかぶせなあかん」、「花を育てることは良い事やね」等コミュニケーションを取りながら実施した。種まき後は、日差しの強い日避け、水やりも利用者と一緒にやり、花の成長と一緒に楽しむことができた。

22.10.23 レタス、ブロッコリーの苗を植えたが今まで育てたことが無い野菜であり、収穫時期が分からず、収穫することができなかった。

[えるむショートステイ]

5. 空床の活用をする。

(評価)

(床数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
空床数	91	68	8	12	41	20	0	16	28	41	3	16	344

年間344床の空床が発生したが、新型コロナウイルス感染症蔓延と、蔓延に伴う新規入居を受けられない期間が発生した。また、ソーシャルワーカーがケアワーカー業務フォローをしていたことで、居宅介護支援事業所への連絡ができておらず、空床活用ができなかった。

5-①「作業手順書」、「業務手順書」の確認、見直しを行う。(8月・2月)

(評価)

8月に新型コロナウイルス感染症蔓延の為、フロア会が開催できず、8月の予定を10月に変更し、10月、2月のフロア会にて、確認、見直し、検討を行うことができた。更に10月にショートステイのシミュレーションも実施することができた。

5-②空床が発生した場合、居宅介護支援事業所へ空床状況を連絡し、利用に繋げる。

(評価)

年間344床(空床利用不可34床含む)の空床が発生したが、新型コロナウイルス感染症蔓延と、スタッフ不足により、居宅介護支援事業所へ空床状況を伝えられなかった。ショートステイを再稼働させたことで、特養の空床ではなく、ショートステイの空床を優先したことで、空床利用の確保ができなかった。

<その他>

・実績:

<月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

率	89.5	92.4	99.0	98.6	95.4	95.4	100	98.1	96.8	95.4	99.6	98.2
---	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------

年間稼働率は96.9%であった。今年度、入居者は6名、退居者は5名。入院者は6名。入院による空床106床発生した。新型コロナウイルス感染症により、新規入居できない空床63床発生した。

<ショートステイ>

12月より、ショートステイを3床ベースとして再稼働することができたが、利用者獲得に向けての働き掛け弱かった為、年間稼働率15.2%※除退所/含空床(22.12-23.3)稼働となった。

・救急搬送：1件

・行政報告：2件

・物品破損：発生件数44件(過誤30件・事故14件・不明0件)

過誤の破損は30件あり、不注意による破損を起こさないように慎重に備品を取り扱うことが必要である。事故の破損については経年劣化も含まれているが、経年劣化を遅らせるための掃除や確認、整備等、様々な工夫が必要である。

・水道光熱費

：水道光熱費について、代表者会、スタッフ会、スタッフ掲示板にて周知するとともに、無駄な使用を避ける為に啓発を行っている。今年度は、1月の使用量が51,112kwと前月比較で+22,813kw。前年度比較でも、+11,507kwと増加した。恐らく、グループホームの感染症対応が1ヵ月以上続き、全居室のエアコンを常時作動させていた事が要因と考える。今年度1/28電気使用量の最高値となり、デマンド値が121kwと高い値となった。今後、推移を確認しながら、使用量の周知と無駄な使用を避けるための啓発を継続していく。

・運営推進会議

：新型コロナウイルスの影響により、4月から意見聴取という形で計画通り年6回開催することができた。

・サークル活動

：“書のある暮らし”：計画通り、4月、1月、3月特養、グループホームとで合同開催とし、習字を楽しんで頂く事ができた。

：“Lクラフト”：6月に編んでるせん工作に取り掛かかった。9月に7日間のLクラフト週間を設け、灯籠作り、編んでるせん工作を完成させた。編んでるせん工作は丘児童センター文化祭に出展でき、灯籠は、敬祝祭で展示した後、夜間、空庭での観覧会を行った。10月は、編み物を行い利用者を楽しんで参加して頂けた。

：“カラオケ広場”：7月は、法人内で新型コロナウイルス感染症が発症し、機材を借用しに行くことができず、開催を中止とした。11月に密にならないよう間隔を空け、少人数での開催とした。

：“えるむシンフォニー”：9月は、新型コロナ感染症が収束していたが、合同での開催は中止とし、サークル活動“Lクラフト”に変更した。12月は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い中止とした。

：感染症対応：8/17-9/4新型コロナウイルス感染症が蔓延し、スタッフ：5名、入居者：5名、が罹患した。感染症の進入経路は、スタッフの持ち込みである。初めての感染症対応であったが、手探りの状態から、他職種と連携、検討を重ね19日間で収

束した。今後も利用者の体調確認を継続して行い、新型コロナウイルス感染症発生時、利用者を居室に隔離すると同時に、スタッフは感染症対策を確実にを行い、利用者、スタッフともに感染を防ぎ、感染症の拡大防止に努める必要がある。

<来年度への課題>

ケアワーカー

- ・担当が中心となり、利用者の日課を確立させ、個々に応じた支援を行う必要がある。
- ・専門職としての技術や、フロア的环境等、スタッフが感じている問題点を共有し、解決する方法を確立させる必要がある。
- ・事故に対する認識が低い為、事故発生後は速やかに臨時のミーティングを開催して、是正処置内容を検討し、検討内容を共有することで事故に対する意識を高める必要がある。

ナース

- ・専門職としての知識を活かし、入居者の健康管理を行う必要がある。
- ・感染症による拡大を防ぐ為、初動や必要備品の確認を行う必要がある。

ソーシャルワーカー

- ・入居者のニーズに即したケアプランを作成し、他職種と連携して支援を行う必要がある。
- ・利用者と共に、季節の野菜や花作りを楽しむ等、楽しみのある生活を送れるように、社会資源や地域行事参加、家族との繋がりを意識した活動が必要である。

ショートステイ

- ・ショートステイの稼働率を上げる為に、居宅介護支援事業所に連絡し、利用者確保に努める必要がある。

グループホーム えるむ
(えるむ デイサービス)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.利用者の日々の生活の質を高め、充実した生活が送れるよう支援する。

(評価)

レクリエーションやイベントなど入居者に楽しみや運動の機会を作ることはできた。日々の家事作業なども一緒に行うことはできたが、スタッフ主体で実施してしまうこともあり、その点については反省点である。ドライブ等も実施することはできたが、グループホーム本来の機動力を発揮することはできておらず、今後の課題である。

1-①毎月1日の朝ミーティングにて、前月に起きた事故の情報をまとめ(リーダーがまとめ当日リーダーに依頼する)話し合いの場を作る。検討内容はケアコラボにて当日申し送りを行う。

(評価)

6月、7月、8月、10月はリーダーの準備ができておらず、実施することができなかった。その他の月に関しては、1日に間に合わない事もあったが話し合いの場を作ることで事故の振り返りや検討をすることができた。事故の内容を改めて把握することで、注意しなければいけないことを再認識することができ、ケアコラボの特記事項に是正を入力することで、目に入りやすかった。

1-②年に2回(6月・10月)、運動会、球技大会、合唱等、入居者に楽しんで頂ける企画を考えミモザイベントを開催する。

(評価)

6/19に「カエルの雄叫びが聞こえてくるよ~梅雨の中のミニ運動会~」を開催した。梅雨のカエルをモチーフにしたオリジナルのレクリエーションを行うことができた。

10/27「弓子ちゃんの人生~ハロウィンパーティー~」では、ハロウィンをモチーフにしたイベントを行い、入居者は楽しそうに身体を動かしてレクリエーションに参加して頂けた。

1-③年に2回(7月と11月)、入居者全員参加型で、ミモザパーティー(パーティー形式の食事会)を開催する。季節や入居者の希望に合わせて、食事の内容を考え、バイキング、レストラン、屋台形式で行い、準備はスタッフ、入居者と一緒に行う。

(評価)

7/29かき氷屋さん、2/12カレーパーティーを開催できた。11月にも開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対応中の為、中止となった。お店やパーティー形式を意識してテーブルクロスを敷いたりレイアウトを変えたりいつもと違う環境で食事を楽しんで頂けた。入居者の希望はみんなの広場から聴取し、パーティーの内容を検討することができた。準備については、入居者とスタッフで協力して実施したが、入居者全員が役割を担うことは難しかった。

1-④季節の食材を使用し、漬物、ジャム、乾物等の保存食を入居者と共に作る。

(評価)

6/6にらっきょ漬け 11/21にリンゴジャムを入居者と共に作ることができた。らっきょは一ヶ月程漬け込み、7/4から食事のメニューに追加する形で提供を始めた。りんごジャムは11/25のおやつに材料を使用した。

1-⑤部所別研修を計画的に開催する。 ※別紙年間活動計画参照

(評価)

概ね年間活動計画の通りに実施できた。会議内で部所別研修を実施したが、参加スタッフ数が少なく会議外でも行う必要があり、複数回の研修の機会を設けて実施した。

※「2022年度えるむ年間活動実績」参照

1-⑥年3回(月3・4人)部長とケアワーカーの個人面談を実施する。

(評価)

予定月に全員の実施をすることはできていなかったが、違う月に実施し、面談を行うことができた。スタッフからは、自分の意見を直接伝えやすい場なので今後も続けて欲しいと好評を得ている。

1-⑦日常の支援としてドライブや外気浴等で外の空気に触れる機会を作る。ドライブは上半期に月に1回以上で計6回以上行う。下半期は感染症や気候を踏まえて実施する。

(評価)

外気浴はベランダや空庭にて頻回に行い、外気に触れることで気分転換ができています。ドライブは上半期に6回実施した。(4/8、9/11、9/16、9/23は2回、9/28)目標を達成することができた。下半期は、11月に紅葉狩り行事でのドライブを実施した。12月と1月については、新型コロナウイルス感染症がグループホーム内で流行した為、実施できなかった。2月は積雪の為ドライブは実施できなかった。3月には、花見でドライブを実施した。

(ケアワーカー)

2.入居者1人1人の情報を共有し、安全でその人らしい生活を送れるよう考え実践していく。

(評価)

個人支援を業務に組み込んだことで、入居者一人一人への支援を行うことができた。入居者のADLにより支援回数などの偏りは出たが、その人に合わせた支援が実施できており、その人らしさが垣間見えた。支援内容についても、入居者に無理が出ない範囲で安全に実施することができた。

2-①月ごとで担当者を決め、週2回(月・木)の頻度でレクリエーションを計画し実施する。レクリエーションの内容として入居者の希望に沿った作品作りや季節に合った飾り作りなども組み込む。月担当は“えるむ年間活動計画”に記載し、物品の準備も含め段取りを行う。

(評価)

今年度よりレクリエーション実施の曜日を変えたことで、ほぼすべてのスタッフがレクリエーションに関わるすることができた。折り紙で作った飾りでは、鯉やカエル等を作成した。壁紙作りは2月にひな祭り、貼り絵で3月に桜の飾りを作成し、季節や行事に合わせた活動が行えた。レクリエーションも様々な内容で実施でき、入居者も楽しみながらレクリエーションや作業を行うことができた。

2-②個人支援を充実させ、利用者らしい生活を送れるよう支援する。

(評価)

個人のケアプランに沿った支援やレクリエーションを実施することで、ケアラボに記録をあげる際にも笑顔の写真と一緒に記録を残すことができた。

・毎日の業務組みの際、個人支援をする入居者と対応スタッフをそれぞれ2名以上選定し、業務に組み込む。担当入居者への個人支援の内容を「個人支援依頼表」に記入しておく。

(評価)

業務組みの際に対応するスタッフ2名以上を決め、支援を行うことができた。「個人支援依頼

表」を作成し入居者への支援内容を分かりやすくすることで、個人支援をスムーズに行うことができた。

(ケアマネジャー)

3.更なるニーズを引き出し、ケアプランに反映させる。

(評価)

特養のソーシャルワーカーとも協力して、サークル活動(Lクラフト・書のある暮らし・えるむシンフォニー・カラオケ広場)を実施した。サークル活動の取り組みを通じて、残存機能の確認や興味・関心の程度、入居者が各々に好まれる活動を把握することにも繋がった。また、サービス担当者会議でスタッフから出た意見はケアプランに反映させることはできたが、更に多くの意見を取り入れていく必要がある。

3-①サービス担当者会議を充実させる為、スタッフからの聞き取りやケアラボの確認、本人様からの聞き取りも行う。サービス担当者会議では、担当ケアワーカー以外のスタッフの参加も促し会議の充実を図る。

(評価)

サービス担当者会議開催時に、担当ケアワーカー以外のスタッフにも参加をしてもらうことはできたが、参加回数としては少なかった。参加してもらえるスタッフをパートスタッフも含めて出席依頼をしていけば、様々な意見を聞くことができたのではないかと考える。サービス担当者会議までに他スタッフからの聞き取りやケアラボを確認して情報を集めることはできた。本人からの聞き取りも行ったが、ケアプランに反映できるような意見を聴取することはできなかった。

3-②利用者と共に菜園作りを行い、空庭の花壇、プランター等を利用しながら、野菜や花の世話、収穫を楽しんで頂けるようにする。実施した内容についてはケアプランに沿って評価を行う。

(評価)

7/9 入居者と一緒に、菜園の種まきを実施した。日差しの強い日は避け、水遣りも入居者と一緒に行うことができた。10/22 レタス、ブロッコリーの苗を植えた。今まで育てたことが無い野菜であり、しっかりと育ったが収穫の時期がよくわからず、収穫することができなかった。実施した内容はケアプランに沿って評価を行った。

[えるむデイサービス]

4. 利用者獲得を目指すと共に、デイサービスについての知識を再確認し、スキル向上につなげる

(評価)

利用者獲得への動きをとることはできなかった。デイサービスの稼働予定は無かったが、3月にスタッフ対象にデイサービスの流れや注意点をレクチャーし、知識の確認を行うことができた。

4-①全スタッフを対象に送迎、おたよりの記入方法、デイサービスの利用時間、必要な記録内容をレクチャーする。

(評価)

デイサービスの流れや送迎時の注意点、新しいお便りの記入方法やデイサービスの利用時間に関わる記録、車両運行時の注意点などを、グループホームスタッフにレクチャーを行った。次年度にデイサービスを利用される際には、再度レクチャーが必要である。

4-②DSの稼働が可能な日に対して、3名の利用者を確保できるようにする。

(評価)

4月から8月までは、安定的にスタッフ数を維持することができず、デイサービスの稼働を行うことができなかった。9月からはスタッフ数も落ち着いてきたが、安定的にデイサービスを実施するだけのスタッフ数に達せず、稼働を行うことができなかった。

4-③入居希望を出されている方に対して、グループホームの生活が体験できるデイサービスを勧めることで利用者の獲得に努める。また、居宅介護支援事業所への案内も行う。

(評価)

事前調査時にはデイサービスの案内を依頼しアピールすることはできたが、実際に利用まで繋げることはできなかった。また、居宅介護支援事業所への案内については、稼働が可能な状態になってから動こうと考え、実施できなかった。ただ、再稼働の折には連絡を入れさせて頂く等の案内はできた為、対応方法を考える必要があった。

<その他>

・実績：

<月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
率	100.0	98.3	98.7	97.8	100.0	97.0	98.2	100.0	95.3	84.4	93.6	94.4

年間稼働率は96.5%であった。今年度は入院者が多かったこともあり、稼働率100%をキープできたのは3ヵ月間のみであった。年間の空床数は230床の空床となった。

・救急搬送：1件

○12/18 朝食を食べられず、呼びかけに対する反応が薄い状態であり、次第に呼吸状態も悪くなってきた為、家族に相談した。受診希望あり、救急車対応にて福知山市民病院へ受診。結果、肺炎の診断あり入院された。

・行政報告：0件

・事故報告

: 事故に対する是正の立案が全体的に遅延していた。繰り返し起こしてしまった事故もあり、タイムリーな是正を実施していく必要がある。

・感染症対応

: 12/1-1/10 まで、グループホームにて新型コロナウイルス感染症が流行し、スタッフ9名、入居者13名が新型コロナウイルスに罹患された。感染症対応に対する知識、技術が不足していたこともあり、長期にわたっての感染症対応となってしまった。

・物品破損：総発生件数 17件 (過誤4件・事故12件・不明1件)

: 食器の破損などは例年に続けてあるが、ケアラボで使用している端末や充電コードなども破損が増えてきている。経年劣化による物品破損もあるが、取扱いを気を付けていれば防げた物品破損もあった為、取り扱い方法や保管方法など、工夫を行う必要がある。

・水道光熱費

: 12-1月に新型コロナウイルス感染症の対応の為、全入居者を居室対応としていたこともあり、全居室でエアコンを使用していた為、電気料金が過去最高値になった。使用量も多かったが、電気料金の値上げも相まって最大で前年の2倍近い料金となった月もあった。

・運営推進会議

: 新型コロナウイルスの影響により、意見聴取の形で運営推進会議を開催した。計画通り年6回開催する事ができた。

・サークル活動

：“書のある暮らし”；4月，1月，3月に開催した。少人数で行い、書字を楽しんで頂く事ができた。1月，3月は密になることを防ぐために、各フロアでの開催とした。

：“Lクラフト”；6月，9月，10月に開催。花瓶カバー，灯籠作りを行った。灯籠については、敬祝祭で展示したり、空庭に電飾と一緒に並べて幻想的な空間を演出することができ、入居者にも見て頂き喜んでいただけた。

：“カラオケ広場”；7月開催予定であったが、感染症が流行しカラオケ機材を拝借することができなかった為、中止とした。11月は開催でき、最初は入居者数名での参加であったが、後から見学に来られた方が複数名おられ、盛り上がりを見せた。開催はコミュニティホールで行い、イスの間隔を空けて密にならないように行った。

：“えるむシンフォニー”；9月，12月に開催予定であったが、8月に特養，12月にグループホームで新型コロナウイルス感染症が流行した為、開催することができなかった。

<来年度への課題>

- ・生活される中での家事作業等をスタッフ主体で実施していることがある。可能な限り入居者と一緒に行い、生活の中での役割を感じて頂ける支援が必要である。
- ・グループホームで新型コロナウイルス感染症が流行し、対応に関する知識やスキルの不足が露呈された。感染症対応に関する知識を向上させるための取組が必要である。
- ・両ユニットの状況を出勤しているスタッフが把握することができていない。その日の利用者の様子や体調の変化を確認し合う場を作る必要がある。

ケアマネジャー

- ・サービス担当者会議を充実させる為、様々な意見の聞き取りや会議参加者を増やす工夫が必要である。
- ・ケアプラン内容の更新を常に行い、新しい情報を記載し更新できるようにする必要がある。

デイサービス

- ・安定的な利用者の確保が行えるよう、対策を考える必要がある。
- ・受け入れ体制を整え、円滑にサービス提供を行える準備が必要である。

えるむ 調理
(えるむの樹)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1. 衛生面の徹底および効率的で統一した業務を行う事により、安全な食事が継続的に提供できる体制を作る。

(評価)

感染症発生時の各フロアの食事準備、食事介助対応の増加、晴風のクックチル対応等、通常業務にプラスとなる作業が増えかなり厳しい業務状況が続いた。しかし、日々の清掃、記録、調理作業等全てにおいて常に互いに確認、注意し合いながら進める事で、少人数でも効率的に動けるようになりマンパワーは確実に Up したと感じている。またユニットキッチン含め衛生面にも常に留意し業務できた事で食中毒の発生はなく 0 件を達成できた。事故に関しては 8 件(上半期 5 件・下半期 3 件) 発生したが、内 6 件は忙しい作業状況下で発生した最終確認不足によるヒューマンエラーが原因であり、再度全員で是正内容を確認した。

- 1-①利用者の禁止食、提供量の統一等、注意点を毎月の調理会にて再確認する。(併せてホワイトボードに記載し周知)

(評価)

注意点や変更点及び要確認事項等は必ずホワイトボード、調理日誌に記載し、朝ミーティング、調理会にて確実に全員で確認し業務することができた。

- 1-②在庫食材の賞味、消費期限を管理する。(パントリー・冷凍庫・冷蔵庫清掃時にチェックし期限が近い物は口頭及びホワイトボードに書き出し引き継ぐ)

(評価)

各箇所清掃時(週 1 回)に食材の期限をチェックし、ホワイトボードに書き出した上で直近で使用可能な献立の確認含め、当日出勤スタッフにも口頭で引き継ぐ事ができた。また、使用頻度の少ない乾物や調味料類は、前年度から業務用ではなく家庭用に切り替えた事で途中で廃棄するなどの無駄をかなり減らす事ができた。また、少なくなった冷凍食材や冷蔵在庫食材は庫内で他食品に埋もれてしまいがちな為、メモを付け見やすい位置に保管する等の工夫をする事で使用忘れを防ぎ庫内の整理整頓にも繋がった。

- 1-③事故発生時には、是正内容も合わせて必ず調理日誌に申し送り、また直近の調理会にて全員で再確認し周知徹底を行う。

(評価)

8 件発生したが、内 6 件は複雑な業務が続いた中での最終確認不足による事故であった。発生後 3 日内には検討し是正を行い、その内容は調理日誌に記載し朝ミーティング、調理会にて周知を行った。

- ・ヒヤリ・ハット Mail も積極的(正規は月 1 回以上・臨時は 6 ヶ月 1 回以上)に提出し、危機管理意識を維持した業務を行う。(調理会にて危機管理委員より提出状況も合わせて報告・伝達し確認)

(評価)

提出件数：67 件(3 月末現在)

正規スタッフ：4 名とも 3 ヶ月分未提出の月があった。パートスタッフ：2 名とも、上、下半

期に1回以上の提出ができた。未提出月があり未達成となったが、トータル67件を提出することができ、調理会内では他部所分も含め必ず内容の確認を行い、全員で取り組む事ができた。また、自部所内の事だけでなく、他部所への気づきも上げる事で、施設全体に対する注意喚起に繋がった件もあると考えている。しかし、ヒヤリ・ハットMailの内容が空心netにアップされていても他部所での改善に繋がったケースは少なかった。

1-④部所別研修を実施する。※会議内で実施

※別紙年間活動実績参照

(評価)

全て予定通り実施できた。今年度は2年目スタッフも資料作成、研修実施、内部研修実施報告書作成まで担当(各2回ずつ)し、しっかりとやり遂げる事ができた点は評価できると考える。

(調理員)

2. 利用者が「美味しそう」、「食べたい」と思える食事、そして「美味しかった」と笑顔になれる食事が提供できるよう、個々の調理技術、知識を向上させ、各利用者に食事を通しての支援、実践を行う。

(評価)

日々かなり厳しい業務状況やあらゆる食材の値上がり等で、食材、献立変更を余儀なくされる事もあったが、各行事食、イベント食等を含め、季節の食材を使った手作りでの提供を継続することができ、利用者からも笑顔とともに「綺麗で食べるのがもったいない」、「美味しかった」との声を沢山聞かせて頂く事ができた。調理実習は時間が取れず実施できなかったが、日常の調理作業の中で、食材の切り方、調理手順、盛り付け方のポイント等を確認し合いながら業務することで、各スタッフの技術、知識は確実に向上したと感じている。(知識不足による事故も1件発生したが、失敗した事で知識として習得することができた。)また、各利用者への支援方法や共有すべき情報等をケアラボに記録し伝達にも取り組んだが、ケアワーカーと十分に検討、共有ができるまでには至らないケースが多かった。

2-①調理実習を半期に1回以上、業務内で実施していく。(日常のメニューにも活用)

(評価)

スタッフ体制が厳しく4/9の1回しか実施できなかった。ただ、日常業務内でポイントやコツ等は随時に伝達でき技術向上に繋がった。

- ・現在備蓄している非常食の調理実習を行い、全ての食事形態の方が安全に摂取できる調理方法、提供方法をまとめマニュアルを作成する。

(評価)

調理実習の時間が取れずマニュアル作成には至らなかった。ただ、下半期総合防災訓練日の夕食時で、今後備蓄予定のレトルトカレーやストック分の粥等をカセットコンロで調理し提供する等、有事の際に現場スタッフが対応できるよう練習の場を作る取り組みはできた。

- ・盛り付け方の学習、実習を行い、目で楽しめる食事提供に繋げる。(日常食事提供時含む)

(評価)

時間を確保しての実習はできなかったが、毎日のスタッフ食の盛り付け時や行事食時等にポイントを確認する事で、利用者の食事の盛り付けに活かす事ができた。また、知識として習得できた事で盛り付け作業の時間短縮にも繋がった。

- ・季節の果物でジャム作りを実習する。(真空・冷凍保存しおやつやパン食時、非常食等に使用)

(評価)

4/9 に甘夏ジャム作りを実習でき、真空・冷凍保存し、サンドイッチやおやつのおトッピング等に活用できた。以降は時間確保ができず実施できなかった。

2-②セレクトメニューの聞き取り用アルバムを作成する。(上半期)

(評価)

前年度から写真は撮っていたがデータに残っている画像が少なく、また、アルバム作成の時間も取れなかった為上半期中には作成できなかった。10 月末には各フロア分が完成し、以降聞き取り時に使用できた。

2-③下半期の行事食，イベント食等で、全ての食事形態の利用者が目でも味でも楽しめるようソフト食，ムース食等を全員が調理できる力を付ける。

(評価)

全員で実習する時間は取れなかったが、4-5 月で食材と増粘剤の割合等の確認はある程度できた。しかし、以降実習や検討をする時間が取れず実践で使用できるまでのマニュアルは作成できなかった。クリスマス料理の時は、星形人参のソフト食を作りシチューに浮かべる等で提供できた。

2-④利用者と共に調理作業の時間を作り、各利用者の ADL の把握を行う事により、日々の食事提供，支援に繋げる。(野菜の皮むき～簡単なメニューを各フロアで調理する等)

(評価)

スタッフ体制が厳しく、また、下半期は感染症対応等が続き、ゆっくりと利用者と共に調理作業をする時間は取れなかった。ただその中でも回数は少ないが、簡単なおやつ作りやお好み焼き作り等は他職種と連携しながら一緒に実施することができた。

(栄養士)

3. 入居者個々の状態，ニーズを把握し、他職種とも連携した栄養ケアマネジメントを行う事により、最期まで安全に“食べる”楽しみを持って頂ける献立，提供に繋げる。

(評価)

日々、各フロアの入居者の食事介助に入り摂取状況を観察する事で個々の状態把握はできており、低栄養状態のリスク判定に合わせたモニタリング内に食事提供時の注意点等も含めてケアラボに毎月記録し情報提供を行ってきた。しかし、その情報は現場スタッフには殆ど活用されず、全体で支援に繋げていく事は難しかった。その為、咀嚼，嚥下状況を確認した上で、栄養士から他部所に協力依頼をし、食事形態の変更等を試行し、結果、食欲 Up、自力摂取への支援に繋がられたケースもあった。また、TC 中の入居者には食事量の調整等はあるものの補食提供を含め毎食安全に“食べる”事を継続支援でき、大きく栄養状態を落とす事なく現状維持にて過ごして頂く事ができている。

3-①日々の状態確認と併せ、入居者のサービス担当者会議に可能な限り参加（照会）含めし、入居者の新情報を得て、個別の栄養ケアマネジメントに活かす。

(評価)

業務上可能な限り、各フロアのサービス担当者会議に参加をし、栄養面及び食事時に気になる点等を含め意見を伝える事ができた。また、サービス担当者会議までに栄養スクリーニング表を作成しケアマネジャーに渡しておく事で、不参加時も栄養士からの情報は伝えてもらう事ができた。逆に常に入居者と関わり情報を得ている為、会議内で新情報を得る事は少なかった。

3-②食事量減少、体調不良時等、対象利用者が一番安全に美味しく摂取できる物を提供するため、食材準備、調理法等、調理員と連携し対応する。(摂取状況等、朝ミーティング・調理日誌にて引き継ぐ)

(評価)

常に各入居者の状態はケアコラボの記録及び日々の摂取状況で把握できており、随時にケアワーカー、ナースと連携し、摂取しやすい物等を調理員と共に調整、提供できた。また、入居者の体調、食事意欲等も観察し、安全に摂取できると判断した入居者に対しては食事形態を上げ試行する事で、食欲 Up に繋げる事もできた。

3-③非常食調理実習後、献立、必要量等含めレシピの再作成を行い、他職種へも伝達を行う。(各会議活用)

(評価)

年間を通し、実習の時間を確保できずレシピ作成までに至らなかった。次年度に引き継ぐ。

3-④栄養士の育成を行う。(献立・栄養ケアマネジメント等、勉強会を業務時間内に持つ)

(評価)

スタッフ体制が整わず、また感染症対応等により業務多忙な状態が続き、勉強会を持つ時間が確保できなかった。ただ、2年目栄養士には6月より1週間分の献立作成の練習を、これの木園栄養士には8月より1ヵ月献立作成の練習を開始し両者ともレビューを繰り返し、1ヵ月献立については、9月分から実際の献立に活用し始めた。また、栄養ケアマネジメントについては、これの木園、晴風栄養士共に実施手順等を説明し、進捗状況等のチェックも行ってきたが、十分に時間を取れなかった事もあり、実際に23.4からマネジメントを開始するには準備不足の状態と思われる。

(これの木園)

4. 栄養ケアマネジメントを確立し、各入居者の栄養状態等を委託業者、他職種と共有することにより、安定した栄養状態、体調維持に繋げていく。

(評価)

栄養ケアマネジメントを実施する上で必要データがなく、また他部所へのデータの依頼も不十分だった為マネジメント作業を進める事ができなかった。入居者の状態等については、毎月の委託業者との会議時以外でも随時に伝える事で、連携し対応できた。

4-①月1回、委託業者と調理会を開催し利用者のニーズを伝え、意見交換、情報共有の場を持つ。

(評価)

委託業者との会議だけでなく、利用者から得た情報もケアワーカーからその都度伝えることで、随時に連携でき、以前よりも手作りの食事提供回数を増やす等の対応をして頂け、利用者からも「美味しくなった」と喜んで頂けている。

4-②行事食やおやつ等に季節感のある食事(食材)を取り入れられるよう、委託業者と連携し提供する。

(評価)

調理会にて、翌月の行事食等で旬の食材や希望の料理を献立に取り入れてもらうよう依頼し、利用者にも喜んで頂ける食事提供に繋がった。

4-③栄養ケアマネジメント業務を確立する。

(評価)

情報、データ不足等により進まず、マネジメント業務の確立はできなかった。

- ・栄養スクリーニング表を上半期内に入居者全員分 1 回目を作成し、以降は採血サイクル（ケアプラン更新と連動）に合わせて作成する。（サービス担当者会議時にはケアマネジャーに提出）

(評価)

各入居者の採血データや身長等、必要項目のデータが不足しており、1 回目の栄養スクリーニング表も半数程度しか作成できなかった。

- ・リスク判定に合わせた、モニタリングをケアコラボに入力していく。（下半期）

(評価)

必要データ不足により低栄養状態のリスク判定ができず、結果モニタリングの記録もできなかった。

< 来年度への課題 >

- ・安全で美味しい食事提供を継続していく為には、常に危機管理意識を持ち業務を行っていかねなければならない。その為にも、全調理スタッフでヒヤリ・ハット Mail 提出にて事故予防に繋げるという意識を持ち継続的に取り組む必要がある。
- ・災害発生時に全食事形態の利用者が安全に摂取できるよう、非常食の提供方法、種類、内容を早急に再検討しまとめる必要がある。
- ・今後も食材価格の高騰が続くと思われる為、業者との連携を更に密にし、市場価格の把握もこまめに行う事で、安全な食材をできるだけ安価に購入できるよう取り組んでいく必要がある。

(調理員)

- ・日々の業務内でのレクチャーを継続的に実施し、更に全員の調理技術、知識を上げていく必要がある。

(栄養士)

- ・今後も栄養ケアマネジメントを確実に実施していく必要がある。
- ・栄養士の育成が必要である。

(にれの木園)

- ・定期的な委託業者との意見交換の場を継続的に設け、今以上に利用者を楽しんで頂ける食事を安全に提供できるよう、更に連携していく必要がある。
- ・栄養ケアマネジメント業務を確立し、他職種と連携しながら入居者の栄養状態の把握、改善、維持に取り組む力量をつける必要がある。

2022 年度えるむ年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	2:花見(外出・お花見弁当) 25:サークル活動 “書のある暮らし” 手紙: 行事食同意, 「緊急連絡先/面会確認者」(再確認)/特・G・D 運推会/各 F 会	10	17:屋内リハレク大会(オリーブ F) 20:サークル活動 “L クラフト” 23,24:えるむシネマ 25: オリーブ F 企画 “「餃子の楳榎」 開店” 27:ミモザイベント 31:屋内リハレク大会(ポブラ F) 手紙: 満足度調査発送/来訪・面会(インフルエンザ・ノロウイルス), 特インフルエンザ同意書/インフルエンザ補助申請/特・G・D 運推会/各 F 会(初)/年度福祉サービス目標活動実績経過報告
5	5:端午の節句(端午の節句弁当) 7,9,14,18,20:防災訓練シミュレーション 21: 総合防災訓練(地震・夜間想定) 23:屋内リハレク大会(オリーブ F) 25:えるむシネマ 30:屋内リハレク大会(ポブラ F) ※排泄バッグ購入	11	2,5,8,12,17:防災訓練シミュレーション 13,16,20,24,25,27:G もみじ祭り 16,22:特えもみじ祭り(紅葉弁当) 18:総合防災訓練(火災・昼間想定)※消防署立会 ※非常食調理実習 26:サークル活動 “カラオケ広場” 29:特えインフルエンザ予防接種 30:X'mas ツリー準備
6	13:特えぼたる祭り 15:結核検診 19:ミモザイベント 21:G えぼたる祭り 27:サークル活動 “L クラフト” 手紙: 来訪・面会 (食中毒), /特・G・D 運推会/各 F 会	12	1-24:X'mas ツリー点灯 24:X'mas 会※行事食 28:餅つき 30:お飾り付け 31:年越しそば 手紙: 外泊・食品持込/特・G・D 運推会/各 F 会/手順書 R/長期備蓄食材・備蓄点検
7	7:七夕 28:土用の丑 29:ミモザパーティー 特養介護保険負担限度額認定証確認/介護保険負担割合証確認	1	1-3:おせち料理※行事食 7:七草粥 10:新年会(新春祝御膳) ※行事食 16:特え初詣 31:サークル活動 “書のある暮らし” 手紙: 満足度調査返送
8	 手紙: 敬祝祭案内/特・G・D 運推会/各 F 会/手順書 R	2	3:節分(恵方巻き) 12:ミモザパーティー 25:えるむシネマ 雛飾り準備 来期事業計画策定/特・G・D 運推会/各 F 会
9	12-16:サークル活動 “L クラフト” 10:特え月見 10:G え月見 20:彼岸(おはぎ) 24:敬祝祭 2021(目で見て楽しむ、食べておいしいえるむ弁当 2022) —	3	3:ひな祭り 14:ポブラ F 企画 “みんなで、美味しい物を食べて、春の陽気のように、暖かい気持ちになりましょう。” 20:彼岸(おはぎ) 25:サークル活動 “書のある暮らし” 年度総括/文書(手順書)R/各 F 会(末)

月例行事: みんなの広場, 理美容 [Tanabe・きれい館・9/30・おかもと 11/1]

月例イベント食: 寿司, セレクトメニュー(月 1 回)

月例業務/会議: 記録 R, 体重測定(第 1 週), 備品点検, 監視・測定機器点検(第 2 週), スピーチ(第 3 週), こちえるコメント週間 20-27 日(2 月 20-25 日)

代表者会議※但し、10 月, 2 月, 3 月は 2 回(上半期:年度福祉サービス目標活動実績経過報告・1 月分:事業計画・2 月分:事業報告)開催。

10 月, 2 月末, 3 月末は拡大代表者会議※副 L 出席

ナース会(隔月), ソーシャルワーカー会議, 調理会議, 特養/グループホーム入居選考会議, SQI, ユニットキッチン清掃,

「こちえるむです」発行※1 月年賀

その他: 特養/グループホーム誕生日会, サービス担当者会議

部所別研修を次のとおり開催した。

4	13,15,25,5/4,5,6: 特え “褥瘡予防” 9:調え “事故/苦情防止”	10	23,24,30,31,11/1,7:特え “感染症対策～インフルエンザ, “ノロウイルス～” 17:調え “高齢者虐待”
5	16:調え “感染症対策～食中毒～” “嘔吐時の対応 実技” 23,24,29,6/12:G え “感染症対策” 31,9/27,28:特え “基礎的な介護技術(ノーリフティングケア)” ※時間外	11	21,23,24,1/12:G え “感染症対策” 16:調え “感染症対策” “嘔吐時の対応 実技”
6	21:調え “身体拘束廃止” 20,26,27,30 特え “感染症対策” 20,30,7/20,8/24:G え “身体拘束廃止”	12	
7	20:調え “褥瘡予防” 27,31,8/8:特え “身体拘束廃止”	1	16,18,23,24,2/3: G え “褥瘡予防” 18:調え “身体拘束廃止”
8	17,20,24:G え “事故/苦情防止”	2	7,17,19,27,3/9:特え “身体拘束廃止” 16,20,21,3/5: G え “身体拘束廃止” 16,20,22,24:G え “認知症について”
9	16,18,23: G え “高齢者虐待” 30,11/3,12,27:特え “事故/苦情防止”	3	16,18,21:G え “認知症ケア”

えるむ 災害対策年次報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より防災の意識を高めると共に、予防活動、救助活動を実施する。

2.取組・対策

[防災]

- ・総合防災訓練を計画通り年2回実施した。今年度は入居者も避難を行う訓練を実施することができた。11月の訓練では、電気が使えない想定で夕食をスタッフが作る訓練を実施し、調理を行うことができた。
- ・防災訓練シミュレーションは5月に5回、11月に6回実施した。スタッフ全員がシミュレーションに参加できるように日程調整を行い、訓練を行うことができた。
- ・防火管理者により、防火機器自主点検及び避難経路点検を年2回（5月・9月）に実施した。
- ・旭が丘防災避難訓練はコロナ禍により緊急連絡網の確認のみとなった。えるむにも連絡を入れて頂き、連絡網の確認を行うことができた。

[EMR.mail]

- ・EMR.mail（スタッフ緊急連絡網）については、次の通り管理した。
 - ①各スタッフのMailアドレスの登録、変更については施設事務と協力し管理した。
 - ②毎月1日に時事内容を含めたテストメールを作成、送信した。
 - ③受信できなかったスタッフには個別に対応し確認を行った。
 - ④京都府内での新型コロナウイルス感染症罹患者数をEMR.mailを活用し、スタッフに周知、啓発を行った。また、行方不明者捜索情報、積雪による通勤時の注意喚起等、EMR.mailを活用することができた。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」のレビューを計画通り年2回実施した。
- ・甲種防火管理新規講習への派遣なし。

<来年度への課題>

[防災]

- ・災害時に備えて、総合防災訓練の内容をより実践的にする必要がある。
- ・夜間想定避難訓練では、現場の夜勤者が指示を行う訓練を実施する必要がある。
- ・災害時用の備蓄品や非常食等の管理を定期的に行う必要がある。
- ・地域との防災に関する情報共有を継続して行う。

[EMR.mail]

- ・EMR.mailの管理は防火管理者が行っているが、不在時などにも発信できるように体制を整える必要がある。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」の継続的な見直しを行う必要がある。

＜年間活動実績＞

月	活動内容
4	30:「総合防災計画」レビュー
5	30:防火機器自主点検及び避難経路点検 21:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔地震・夜間想定〕※自主訓練 21:防火器具／消防設備点検(指定業者)
8	28:旭が丘防災避難訓練
9	30:防火機器自主点検及び避難経路点検
10	31:「総合防災計画」レビュー
11	18:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔火災・昼間想定〕※消防署立会 18:防火器具／消防設備点検(指定業者) ＜秋季火災予防運動＞
3	＜春季火災予防運動＞